

型名：HT-Z9F

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル …………… 0120-333-020	フリーダイヤル …………… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

SONY®

サウンドバー

取扱説明書

テレビやAV機器とつなぐ

ネットワークにつなぐ

本機を使うための準備をする

映像を見る

音楽/音声を聞く

音質を調整する

HDMI機器制御機能を使う

設定を変更する

困ったときは

その他

DOLBY ATMOS®

dts

DLNA CERTIFIED™

LDAC

HDMI

Made for iPhone | iPod



* 4 7 2 7 5 3 3 0 8 * (1)

**警告**

安全のために

(→ 101 ページ～106 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

101～106 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。107 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- 1 電源を切る
- 2 電源プラグをコンセントから抜く
- 3 お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

箱の中身を確認する	5
本機でできること	6
各部の名称とはたらき	8
ホームメニューの使いかた	14

テレビやAV機器とつなぐ

テレビやAV機器とHDMIケーブルをつなぐ → スタートガイド（別紙）をご覧ください。

ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビとワイヤレスでつなぐ	17
テレビとアナログ音声ケーブルでつなぐ	20
4Kテレビと4K対応機器をつなぐ	21
eARC対応テレビとつなぐ	25

ネットワークにつなぐ

有線でネットワークにつなぐ	26
無線でネットワークにつなぐ	27

本機を使うための準備をする

バースピーカーやリアスピーカー（別売）を壁に取り付ける	30
グリルを取り付ける	33

サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ	33
テレビのリモコンが効かないときは	36

映像を見る

テレビを見る	37
AV機器を再生する	37

音楽／音声を聞く

BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く	38
USB機器の音楽を聞く	40
ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く	42
アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音声を聞く	43
Spotifyを使う	43
MUSIC SERVICEボタンを使う（ミュージックサービス）	44
Chromecast built-inを使ってストリーミングサービスの音楽を聞く	45
Alexa搭載端末に話しかけて本機で音楽を聞く	46
Sony Music Centerを使う	47

ワイヤレスマルチルーム対応の他機器 とつなぐ (ワイヤレスマルチルーム)	48
テレビやつないだ機器の音声を ヘッドホンで聞く	49

音質を調整する

上から包まれる臨場感を体験する (VERTICAL S.)	52
音源に合わせたサウンド効果に設定 する (サウンドモード)	53
セリフを聞きやすくする (ボイス)	54
深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウ ンドで楽しむ (ナイトモード)	55
サブウーファー、リアスピーカーの 音量を調節する	55
音声と映像のずれを調節する	56
圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の 高解像度で再生する (DSEE HX)	57
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)	58
DTS:X再生中にセリフの音量を調節 する	59

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能を使う	61
"ブラビアリンク"を使う	64

設定を変更する

スピーカーの設定をする	65
表示窓とBLUETOOTHランプの明るさ を調整する (本体表示)	66
スタンバイ時の待機電力を おさえる	67

かんたん設定を行う	67
詳細設定をする	68
ソフトウェアをアップデートする	75

困ったときは

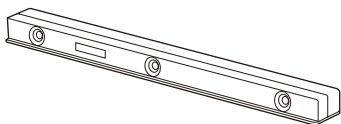
困ったときは	77
初期化する	88

その他

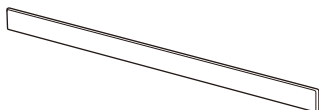
主な仕様	89
再生できる音声ファイルの種類	91
入力できる音声フォーマット	92
入力できる映像フォーマット	93
BLUETOOTH無線技術について	95
ソフトウェア使用許諾契約書	97
安全のために	101
使用上のご注意	107
保証書とアフターサービス	111
索引	112

箱の中身を確認する

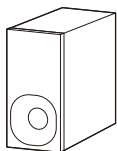
- バースピーカー (1)



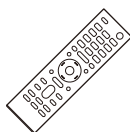
- グリル (1)



- サブウーファー (1)



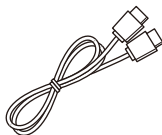
- リモコン (1)



- 単4形マンガン乾電池 (2)



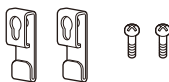
- HDMIケーブル (プレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応)) (1)



- 壁掛けテンプレート (1)



- 壁掛け用ブラケット (2)、ネジ (2)



- スタートガイド

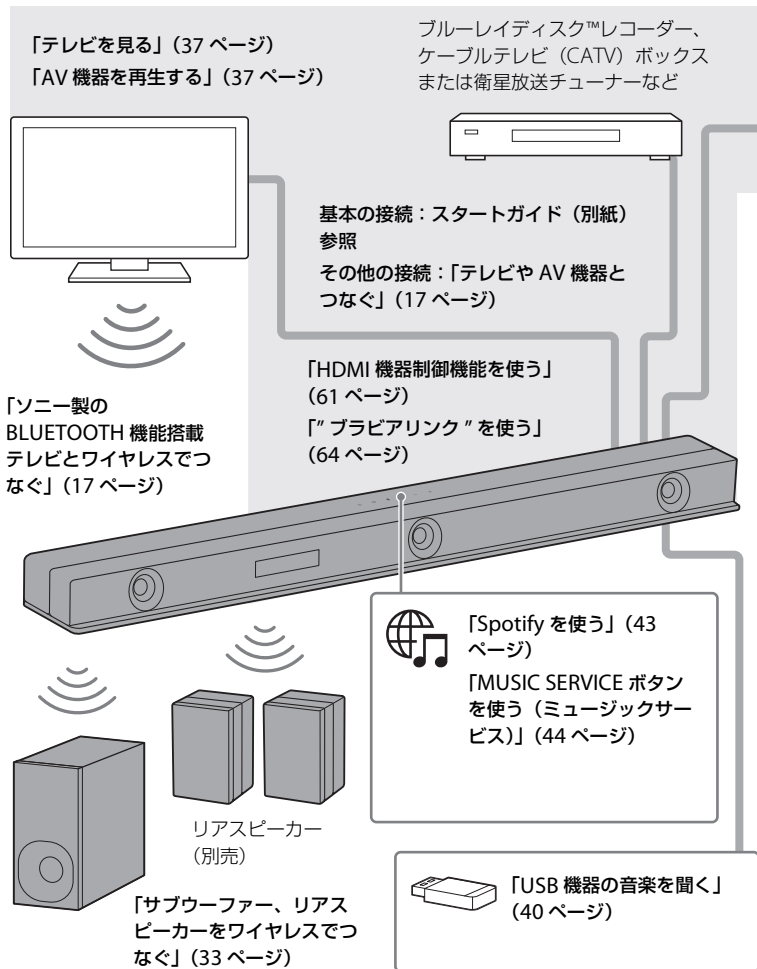


- 取扱説明書

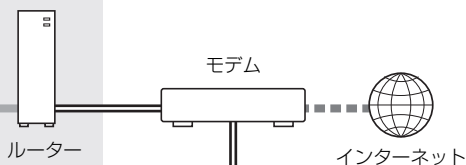


本機でできること

本機はDolby Atmos、DTS:Xなどのオブジェクトオーディオフォーマット、HDR10、HLG、Dolby VisionなどのHDR映像フォーマットに対応しています。



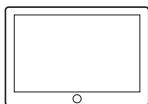
「有線でネットワークにつなぐ」
(26 ページ)



「無線でネットワークにつなぐ」
(27 ページ)



「ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く」
(42 ページ)



「BLUETOOTH® 機能で音楽／音声を聞く」
(38 ページ)

「Sony | Music Center を使う」(47 ページ)



「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで
聞く」(49 ページ)



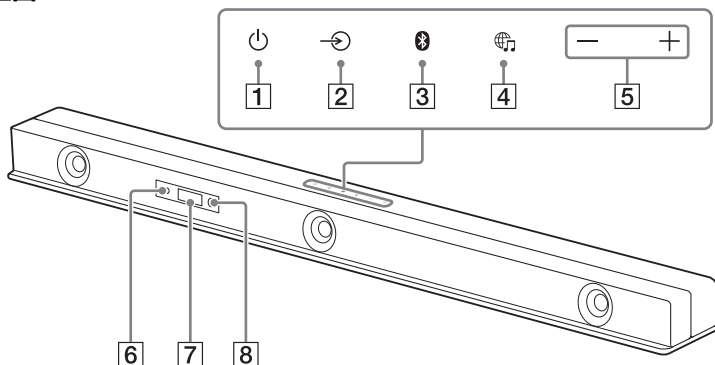
「ワイヤレスマルチルーム対応の他機器
とつなぐ (ワイヤレスマルチルーム)」
(48 ページ)

各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

本体（バースピーカー）

正面



1 電源 ボタン

本機の電源を入れます。
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。

2 入力切換 ボタン

本機で再生する機器を選びます。

3 BLUETOOTHボタン (38ページ)

4 (ミュージックサービス) ボタン (44ページ)

5 + / - (音量) ボタン

6 BLUETOOTHランプ

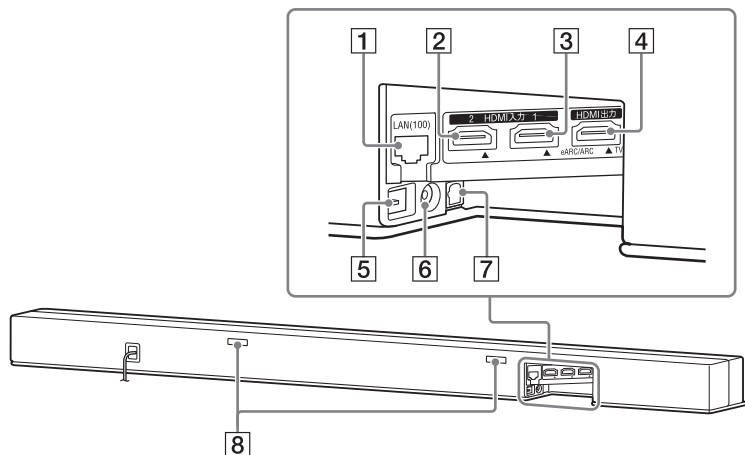
- 青色で速く点滅：BLUETOOTH機器登録（ペアリング）待ち状態です。
- 青色で点滅：BLUETOOTH接続待ち状態です。
- 青色で点灯：BLUETOOTH機器とBLUETOOTH接続されています。

7 表示窓

8 リモコン受光部

リモコンを本体の受光部に向けて操作してください。

背面



① LAN (100) 端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

② HDMI入力 2端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

③ HDMI入力 1端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

④ HDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子

HDMI入力端子のあるテレビをHDMIケーブルでつなぎます。本機はeARCおよびARCに対応しています。ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る機能です。eARCはこのARCを拡張したもので、ARCでは伝送できな

かったオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMの伝送が可能になります。eARC機能については「eARC対応テレビとつなぐ」(25ページ)、対応している音声フォーマットについては「入力できる音声フォーマット」(92ページ)、仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

⑤ USB 端子 (AV周辺機器用) (40ページ)

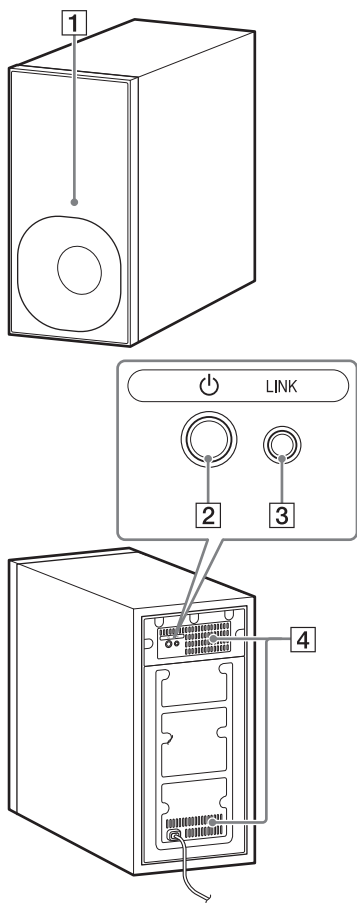
⑥ アナログ入力端子

⑦ TV入力 (OPT) (光デジタル) 端子

⑧ IRリピーター (36ページ)

本体が受けたテレビのリモコン信号をテレビに転送します。

サブウーファー



1 電源ランプ

- 緑色でゆっくり点滅：本機と未接続
- 緑色で点灯：本機と接続中
- 緑色で2回ずつ点滅：本機と接続待機中
- オレンジ色で点滅／点灯：ソフトウェアアップデート中
- 赤色で点灯：スタンバイ状態
- 消灯：電源オフ状態

2 電源（電源）ボタン

サブウーファーの電源を入れます。サブウーファーの電源が入っているときに押すと、オフにします。

3 LINK（リンク）ボタン（33ページ）

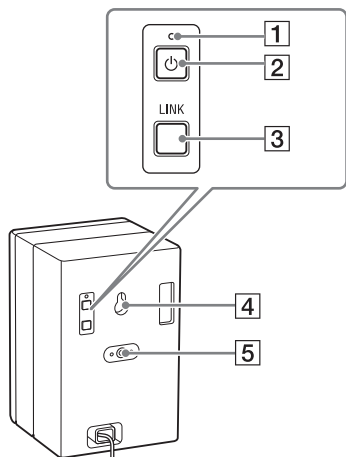
4 通風孔

安全のためふさがないようにしてください。

リアスピーカー（SA-Z9R）（別売）

リアスピーカー（別売）を2台つなぐと、よりサラウンド音声を楽しむことができます。

接続については、「サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ」（33ページ）をご覧ください。



1 電源ランプ

- 緑色でゆっくり点滅：本機と未接続
- 緑色で点灯：本機と接続中
- 緑色で2回ずつ点滅：本機と接続待機中
- オレンジ色で点滅／点灯：ソフトウェアアップデート中
- 赤色で点灯：スタンバイ状態
- 消灯：電源オフ状態

2 電源ボタン

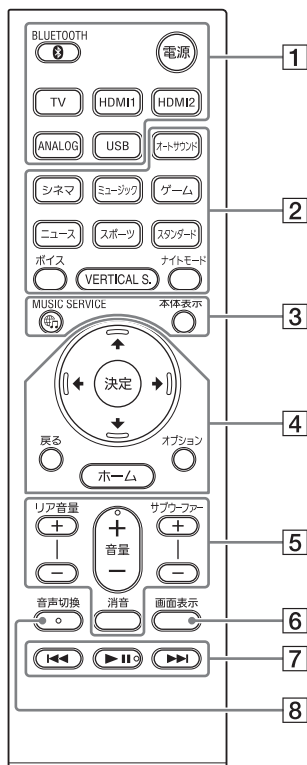
リアスピーカーの電源を入れます。リアスピーカーの電源が入っているときに押すと、オフにします。

3 LINK（リンク）ボタン（33ページ）

4 壁掛け用穴（32ページ）

5 スピーカースタンド用取り付け穴

リモコン



1 電源ボタン

本機の電源を入れます。
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。

BLUETOOTHボタン (38ページ)

TVボタン (37ページ)

HDMI1ボタン (37ページ)

HDMI2ボタン (37ページ)

ANALOGボタン (43ページ)

USBボタン (40ページ)

2 オートサウンドボタン (53ページ)

シネマボタン (53ページ)

ミュージックボタン (53ページ)

ゲームボタン (53ページ)

ニュースボタン (53ページ)

スポーツボタン (53ページ)

スタンダードボタン (53ページ)

ボイスボタン (54ページ)

VERTICAL S.ボタン (52ページ)

ナイトモードボタン (55ページ)

3 本体表示ボタン (66ページ)

MUSIC SERVICE (ミュージックサービス) ボタン (44ページ)

4 決定ボタン (14ページ)

戻るボタン (14ページ)

オプションボタン (56ページ)

オプションメニューをテレビ画面に表示します。テレビ入力の場合には表示されません。

ホームボタン (14ページ)

⑤ リア音量+ / - ボタン

リアスピーカー（別売）をつないでいるときに、リアスピーカーの音量を調節します。

音量+* / - ボタン

音量を調節します。

サブウーファー+ / - ボタン

サブウーファーの音量を調節します。

消音ボタン

音を一時的に消します。

⑥ 画面表示ボタン

再生情報をテレビ画面に表示します。テレビ入力の場合は表示されません。

⑦ 再生操作ボタン

◀◀ / ▶▶ (前へ / 次へ) ボタン

前または次のトラック / ファイルを選びます。

再生中に押したままにすると早戻し / 早送りできます。

▶▶ (再生 / 一時停止)

ボタン*

再生を開始、一時停止または再生を再開します。

⑧ 音声切換ボタン* (58ページ)

* 音声切換ボタン、▶▶ (再生 / 一時停止) ボタン、音量+ボタンには、凸点 (突起) が付いています。操作の目印として、お使いください。

電池交換について

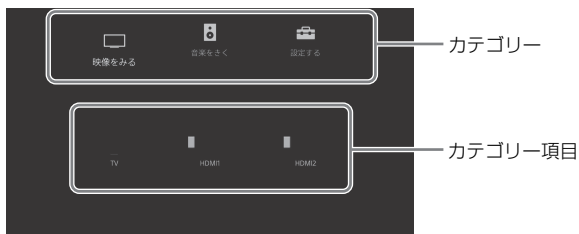
リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り換えてください。

電池は単4形マンガン乾電池をお使いください。

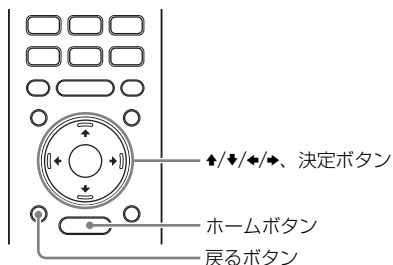
ホームメニューの使いかた

本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつないで、本機のホームメニューをテレビ画面に表示することができます。ホームメニューからさまざまな調整をしたり、入力を選んだりすることができます。

ホームメニューは「かんたん設定」で選んだ言語で表示されます。（以下の画面は日本語を選んだときの例です。）



ホームメニューを使う



1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ↑/↓/←/→ボタンを押してカテゴリを選び、↓ボタンまたは決定ボタンを押す。

カテゴリの下に、選んだカテゴリの項目が表示されます。

3 ▲/▼/←/→ボタンを押してカテゴリーの項目を選び、決定ボタンを押す。

選んだ入力または設定画面が表示が切り換わります。
前の画面に戻るには戻るボタンを押します。

[映像をみる]

テレビや本機につないだAV機器の入力を選びます。
「映像を見る」(37ページ)をご覧ください。

[音楽をきく]

本機につないだオーディオ機器やミュージックサービスの入力を選びます。
「音楽／音声を聞く」(38ページ)をご覧ください。

[設定する]

[かんたん設定] で基本的な初期設定をしたり、本機のいろいろな詳細設定をすることができます。


「かんたん設定を行う」(67ページ) または 「詳細設定をする」(68ページ) をご覧ください。

ネットワーク上でアップデート情報が見つかった場合、アップデート通知およびアップデートを行う [ソフトウェアアップデート] が表示されます。
「ソフトウェアをアップデートする」(75ページ) をご覧ください。

本書の手順の記載について

本書では、本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつないだ状態で、テレビ画面に表示されたホームメニューをリモコンで操作する手順を記載しています。

このページ以降は、**▲/▼/◆/▶**ボタンと決定ボタンを使ってテレビ画面の項目を選ぶ操作の手順を以下のように簡略化して記載します。

例：ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

カテゴリーとカテゴリー項目を**▲/▼/◆/▶**ボタンを押して選び、決定ボタンを押す操作を「選ぶ」と記載します。カテゴリーとカテゴリー項目を**→**でつなげて記載します

例：[スピーカー設定] → [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。

▲/▼/◆/▶ボタンを押して選び、決定ボタンを押す操作を繰り返す場合、選ぶ項目を**→**でつなげて記載します。

ちょっと一言

- リモコンのボタン名と本体のボタン名が同じ名称の場合は、本体のボタンで同じ操作ができます。
- [-] カッコの中に書かれている文字はテレビ画面に、「-」カッコの中に書かれている文字は表示窓に表示されます。

テレビやAV機器とつなぐ

テレビやAV機器
とHDMIケーブル
でつなぐ

4Kテレビや4K対応機器をつなぐときは

「4Kテレビと4K対応機器をつなぐ」
(21ページ)をご覧ください。

eARC対応テレビをつなぐときは

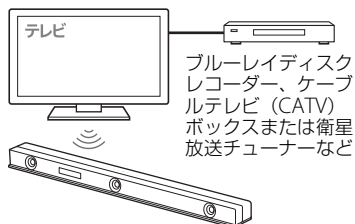
接続方法はスタートガイド(別紙)、
設定については「eARC対応テレビと
つなぐ」(25ページ)をご覧ください。

上記以外のテレビとHDMIケーブルで
つなぐときは、スタートガイド(別
紙)をご覧ください。

ソニー製の
BLUETOOTH機
能搭載テレビとワ
イヤレスでつなぐ

ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビ*をお使いの場合、テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないで、テレビやテレビにつないだ機器の音声をワイヤレスで聞くことができます。

* A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。



ご注意

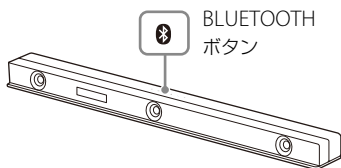
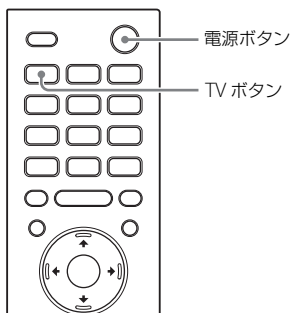
- テレビと本機をBLUETOOTH機能でつなぐと、ホームメニューなどの操作画面をテレビ画面に表示することができないため、テレビやテレビにつないだ機器の音声を聞く以外の機能はお使いになれません。

本機のすべての機能をお使いになりたい場合は、本機とテレビをHDMIケーブル(付属)でつないでください。テレビとHDMIケーブルでつないで、テレビの音声を聞くための接続と操作については、スタートガイド(別紙)をご覧ください。

- 本機能はA2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応しているソニー製のテレビで使うことができます。

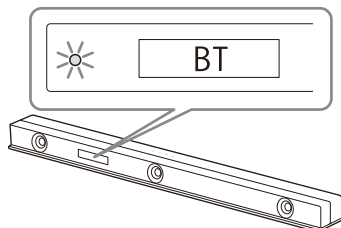
テレビとワイヤレスでつなぐ

本機とテレビをワイヤレスでつなぐには、BLUETOOTH機能を使ってテレビと本機を機器登録 (ペアリング) する必要があります。ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。



- 1 リモコンを準備する。
- 2 テレビの電源を入れる。
- 3 本機の電源を入れる。
- 4 本体のBLUETOOTHボタンとリモコンのTVボタンを同時に5秒間長押しする。

本機がペアリングモードになり、表示窓に「BT」と表示され、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



- 5 テレビで機器登録 (ペアリング) 操作をして、本機を検索する。

テレビの画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。

テレビにBLUETOOTH機器を機器登録 (ペアリング) する操作方法は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

- 6 テレビの画面に表示された機器の一覧から「HT-Z9F」を選び、互いの機器を登録する。

- 7 本体のBLUETOOTHランプが青色に点灯し、表示窓に「TV(BT)」が表示されていることを確認する。

本機とテレビとの接続が完了しました。

8 テレビのリモコンでお好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

本機からテレビに表示している画面の音声が出力されます。

9 テレビのリモコンで音量を調節する。

テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ご注意

- 本機からテレビの音声が出ないときは、リモコンのTVボタンを押し、本体の表示窓とランプの状態を確認してください。
 - 表示窓に「TV(BT)」が表示されているとき：本機とテレビの接続が完了しテレビの音声の本機から出力されます。
 - BLUETOOTHランプが速く点滅し表示窓に「BT」が表示されているとき：テレビ側でペアリングを行ってください。
 - 表示窓に「TV」が表示されているとき：ペアリングの手順を最初からやり直してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつなぐと、BLUETOOTH接続が解除されます。本機とテレビをBLUETOOTH機能でつなぎなおすには、HDMIケーブルを抜いてからペアリングの手順を最初からやり直してください。

ペアリング（機器登録）済みのテレビの音声を聞く

テレビとワイヤレスでつなぐと、テレビのリモコン操作でも本機の電源入/切、音量調節、消音の操作ができます。

1 テレビのリモコンでテレビの電源を入れる。

テレビの電源に連動して本機の電源が入り、本機からテレビの音声が出力されます。

2 テレビのリモコンでお好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

本機からテレビに表示している画面の音声が出力されます。

3 テレビのリモコンで音量を調節する。

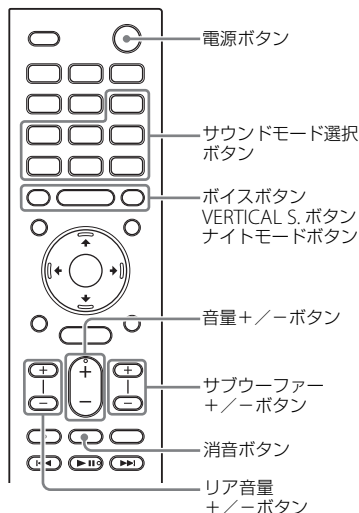
テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ちょっと一言

テレビの電源を切ると、テレビの電源に連動して本機の電源も切れます。

本機のリモコンで操作できること

以下のボタンを使うことができます。テレビのリモコンで操作できる電源入／切や音量調節以外に、サブウーファー、リアスピーカーの音量調節や本機の音質調整をすることができます。



ご注意

- 本機のリモコンでテレビ以外の入力を選ぶと、テレビの音声が本機から出なくなります。テレビの音声を本機で聞くには、リモコンのTVボタンを押してテレビ入力を選んでください。
- テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないでいるときは、以下のリモコンのボタンが効きません。
◀/▶/▶▶ ボタン、決定ボタン、オプションボタン、ホームボタン、画面表示ボタン、▶▶ (再生／一時停止) ボタン、◀◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン

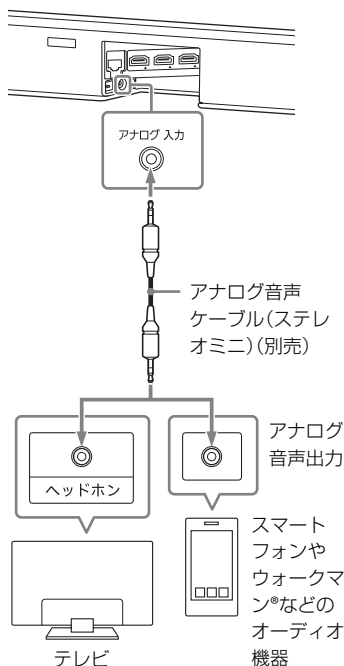
テレビとアナログ音声ケーブルでつなぐ

以下の機器の音声を聞く場合は、本機のアナログ入力端子につなぎます。

—HDMI端子や光デジタル出力端子がないテレビ

—スマートフォンやウォークマン®などのポータブルオーディオ機器

つないだ機器の音声を聞くには「アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音声を聞く」(43ページ)をご覧ください。



ご注意

テレビのヘッドホン端子が音声出力端子として使用できる場合は、テレビの音声出力設定を確認してください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

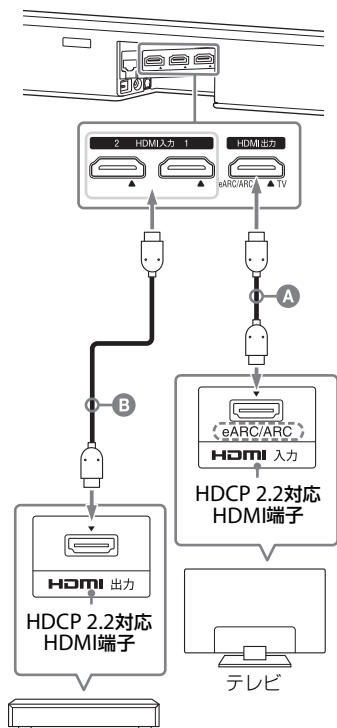
4Kテレビと4K対応機器をつなぐ

本機のHDMI端子はすべて4K映像フォーマットやHDCP 2.2に対応しています。

著作権保護された4K映像コンテンツを見る場合は、それぞれの機器のHDCP 2.2対応HDMI端子同士をつなぎます。

著作権保護された4K映像コンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子につながないと視聴できません。

テレビのHDCP2.2対応HDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表記がある場合



ブルーレイディスクレコーダー、ケーブルテレビ (CATV) ボックスまたは衛星放送チューナーなど

A HDMIケーブル (付属)

B HDMIケーブル (別売)

4K映像フォーマット対応のHDMIケーブルを使用してください。詳しくは「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

1 お使いのテレビで、どのHDMI入力端子がHDCP 2.2に対応しているかを確認する。

テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 テレビのHDCP 2.2対応HDMI入力端子と本体のHDMI出力端子をHDMIケーブル (付属) でつなぐ。

テレビとの接続は完了です。

3 4K対応機器のHDMI出力端子 (HDCP 2.2対応) と本体のHDMI入力端子をHDMIケーブル (別売) でつなぐ。

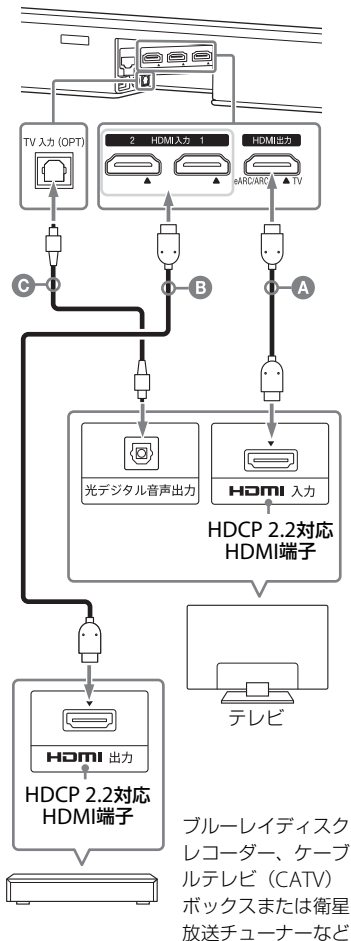
お使いの4K対応機器のHDMI出力端子がHDCP 2.2に対応しているかは、機器の取扱説明書をご覧ください。

他機器との接続は完了です。

テレビのHDCP 2.2対応 HDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表記がない場合

テレビのHDCP 2.2対応HDMI入力端子がeARCまたはARCに対応していない場合は、本機からテレビの音声が出力されません。

その場合はテレビの光デジタル音声出力端子と本体のTV入力（OPT）端子を光デジタル音声ケーブル（別売）でつないでください。



- **A HDMIケーブル（付属）**
- **B HDMIケーブル（別売）**
4K映像フォーマット対応のHDMIケーブルを使用してください。詳しくは「入力できる映像フォーマット」（93ページ）をご覧ください。
- **C 光デジタル音声ケーブル（別売）**

4K映像コンテンツを見るための設定をする

4K映像コンテンツを見るために、つないだ4Kテレビや4K対応機器に合わせた設定を行います。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] を選ぶ。

[HDMI信号フォーマット] 画面が表示されます。

4 [HDMI入力1] または [HDMI入力2] (設定したい入力) を選び、お好みの設定を選ぶ。

- [標準フォーマット] (お買い上げ時の設定) : 本機につないだ機器とテレビが標準的なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。
- [拡張フォーマット] : 本機につないだ機器とテレビが4K 60p 4:4:4などの高精細なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。

[HDMI信号フォーマット] の設定と、対応映像フォーマット信号、

使用できるHDMIケーブルについて詳しくは、「入力できる映像フォーマット」(93ページ)をご覧ください。

ご注意

- ご使用のテレビによっては、テレビ側のHDMI出力設定変更が必要になる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- [拡張フォーマット] を選んだ後に画面が表示されない場合は、[標準フォーマット] に設定してください。

eARC対応テレビとつなぐ

本機はeARC (Enhanced Audio Return Channel) に対応しています。eARCは、HDMI 2.1で規格化された新機能です。従来のARC (Audio Return Channel) で対応しているオーディオフォーマットに加え、最新のオーディオフォーマットもサポートしています。

eARCに対応したテレビと本機をHDMIケーブルでつなぐことにより、ARCでは伝送できなかったDolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:Xなどのオブジェクトオーディオや、マルチチャンネルLPCMを楽しむことができます。


eARC対応テレビとの接続方法は、スタートガイド (別紙) をご覧ください。

eARC機能を使うための準備をする

- 1 本機のHDMI出力端子の表記が「ARC」の場合、ソフトウェアアップデートを行う (75ページ)。

HDMI出力端子の表記が「eARC/ARC」の場合はeARC機能に対応しています。

- 2 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。

- 3 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

- 4 [HDMI設定] → [eARC] → [入] を選ぶ。

eARC機能が有効となり、eARC対応テレビにつないでいるときは、eARC機能が動きます。ARC対応テレビ (eARC非対応のテレビ) につないでいるときは、ARC機能が動きます。

ご注意

- 手順4で設定メニューに [eARC] が表示されない場合、ソフトウェアアップデートを行ってください (75ページ)。
- [eARC] を [入] に設定したときは、テレビのeARC設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

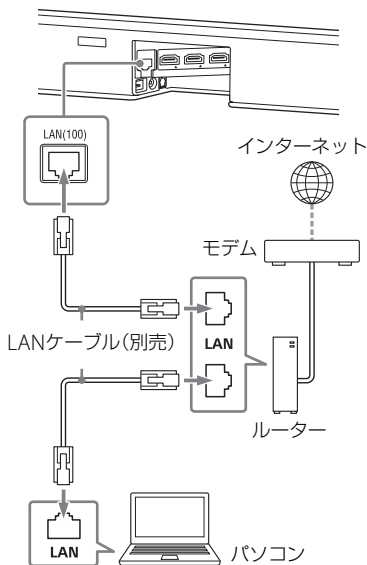
ネットワークにつなぐ

有線でネットワークにつなぐ

ご家庭のネットワークに本機とパソコンをLANケーブルでつないで、ホームネットワークの準備をします。

パソコンやルーターとLANケーブルでつなぐ

次のイラストは本機とパソコンをホームネットワークにつなぐ配置例です。






ご注意

- 本機とパソコンは同一のネットワークにつないでください。
- 本製品につなぐルーター等は電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているものをつないでください。


ちょっと一言

LANケーブルはシールドタイプのストレートケーブル（別売）をお使いください。

ネットワーク情報を自動取得してつなぐ

- 1 ホームボタンを押す。**
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。**
- 3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [有線LAN設定] を選ぶ。**
- 4 [自動取得] を選ぶ。**
ネットワーク設定が開始され、ネットワークの設定状態が表示されます。 ボタンを押して情報を閲覧し、 ボタンを押します。
- 5 [接続診断] を選ぶ。**
ネットワーク接続が開始されます。詳しくは画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使用してつなぐ

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。
- 3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [有線LAN設定] を選ぶ。
- 4 [手動] を選ぶ。
- 5 画面の指示にしたがって設定する。
ネットワーク設定が開始され、ネットワークの設定状態が表示されます。↑/↓ボタンを押して情報を閲覧し、→ボタンを押します。
- 6 [接続診断] を選ぶ。
ネットワーク接続が開始され、詳しくは画面に表示されるメッセージをご覧ください。

ご注意

IPv6を選んだ場合は、固定IPアドレスを使用することができません。

無線でネットワークにつなぐ


お使いの無線LANルーターに本機とパソコンをWi-Fiでつないで、ホームネットワークの準備をします。

ご注意

- 本機とパソコンは同一のネットワークにつないでください。
- 本製品につなぐルーター等は電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているものをつないでください。

WPS (AOSS、らくらく無線スタート) ボタンでつなぐ

無線LANルーター（アクセスポイント）がWi-Fi Protected Setup (WPS) AOSS、らくらく無線スタートのいずれかに対応しているときは、簡単にネットワーク設定ができます。

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。
- 3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [無線LAN設定] を選ぶ。
テレビ画面にネットワーク名のリストが表示されます。

次のページへつづく

4 [Wi-Fi Protected Setup™(WPS)] を選ぶ。

5 [開始] を選ぶ。

6 アクセスポイントのWPS (AOSS、らくらく無線スタート) ボタンを押す。
ネットワーク接続を開始します。

ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ

無線LANルーター (アクセスポイント) がWPSに対応していない場合は、次の情報をあらかじめご確認ください。

- ネットワーク名 (SSID) *


- セキュリティーキー (パスワード) **

* SSID (Service Set Identifier) は具体的なアクセスポイントを確認する名前です。

** この情報は、無線LANルーター/アクセスポイントのラベル、取扱説明書、ワイヤレスネットワークを設定した人、またはインターネットサービスプロバイダーから得ることができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [無線LAN設定] を選ぶ。

テレビ画面にネットワーク名のリストが表示されます。

4 ネットワーク名 (SSID) を選ぶ。

5 ソフトウェアキーボードでセキュリティキー (またはパスワード) を入力し、[Enter] を選ぶ。

ネットワーク接続を開始します。

固定IPアドレスを使用してつなぐ

「ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ」の手順4で [新しい接続先の登録] → [手動登録] を選んでから、画面の指示にしたがって操作してください。

PIN方式でつなぐ

「ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ」の手順4で [新しい接続先の登録] を選んでから、[(WPS) PIN方式] を選びます。

Sony | Music Centerアプリを使用してつなぐ

Sony | Music Centerアプリを使って、お使いのモバイル機器と同一のネットワークに本機をつなぐことができます。

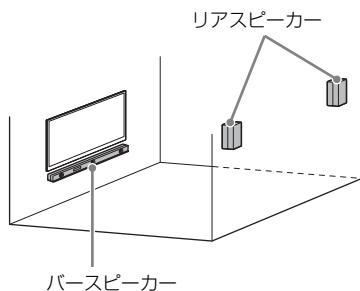
詳しくはSony | Music Centerアプリのヘルプまたは下記のURLをご覧ください。

<http://www.sony.net/smcqa/>

本機を使うための準備をする

バースピーカーや リアスピーカー (別売) を壁に取り 付ける

次の手順でバースピーカーやリアスピーカーを壁に取り付けることができます。

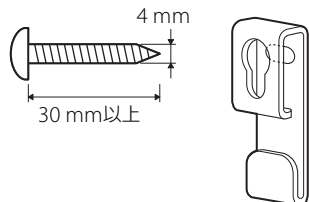


ご注意

- 壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーやリアスピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。

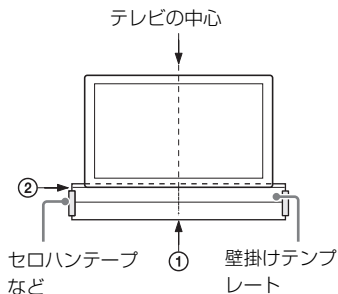
バースピーカーを壁に取り付ける

- 1 壁掛け用ブラケット (付属) の穴に合う市販のネジを2本用意する。



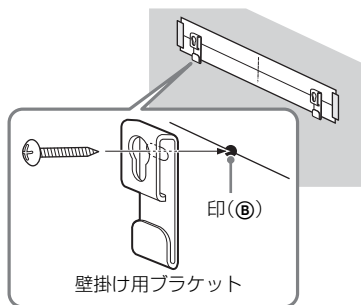
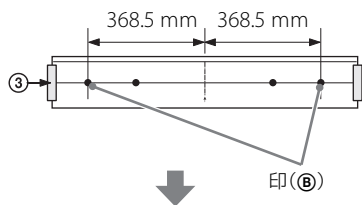
壁掛け用ブラケット

- 2 壁掛けテンプレート (付属) を壁に貼る。



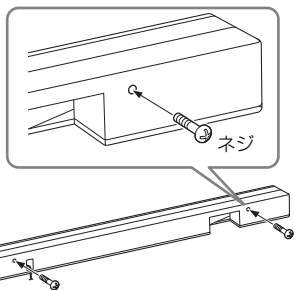
- 1 壁掛けしたテレビの中心に壁掛けテンプレートのTVセンターライン (①) を合わせる。
- 2 壁掛けテンプレートのTV下端ライン (②) をテレビの下端に合わせ、壁掛けテンプレートを市販のセロハンテープなどで貼る。

- 3** 下図のように、壁掛け用ブラケット（付属）を壁掛けテンプレートのネジ取付ライン（㉓）上の印（㉔）に市販のネジでとめる。



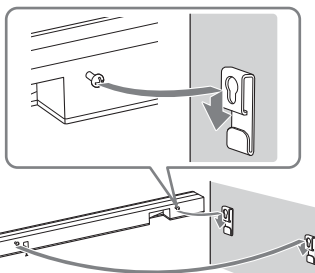
- 4** 壁掛けテンプレートを取りはずす。

- 5** バースピーカー背面に、付属のネジをゆるみのないようにしっかりととめる。



- 6** バースピーカー背面に取り付けたネジを、壁掛け用ブラケットにかける。

バースピーカー背面のネジと壁掛け用ブラケットの穴の位置を合わせてから、バースピーカーを壁掛け用ブラケットにかけてください。



ご注意

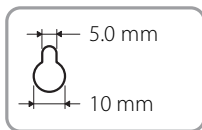
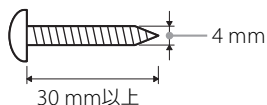
- 壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして貼ってください。
- バースピーカー背面に取り付けたネジと壁掛け用ブラケットの穴の位置が合わない場合は、壁掛け用ブラケットを左右に微調整してください。
- 壁にかける場合は必ず付属の壁掛け用ブラケットを使用してください。バース

ピーカーを直接壁にかけないでください。
製品内部の温度が上昇することで、誤動作や故障の原因となります。

- 壁掛けテンプレートをご使用にならない場合は、テレビとバースピーカーの距離を7 cm以上離して設置してください。

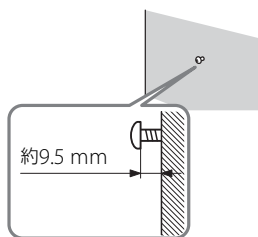
リアスピーカーを壁に取り付ける

- 1 リアスピーカー背面の穴に合う市販のネジを2本用意する。



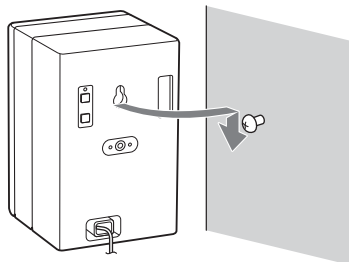
リアスピーカー背面の穴

- 2 壁にネジをとめる。



- 3 リアスピーカーの左右を確認し、リアスピーカー背面の穴をネジにかける。

背面のラベルを確認して左右の判別をします。「REAR R」が右、「REAR L」が左です。



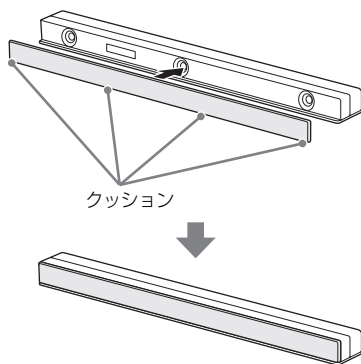
グリルを取り付ける

付属のグリルをスピーカー部分に装着することで、スピーカー部分を保護することができます。

ハイレゾ音源をより良い音質でお楽しみいただくためには、グリルをつけないでお使いになることをおすすめします。

グリルを本体前面に対して平行に取り付ける。

グリルのクッションを下側にして取り付けます。



ちょっと一言

グリルはマグネットによって固定されます。

サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ

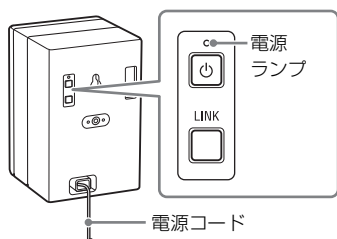
サブウーファー、リアスピーカーは、電源を入れると自動的に本機とつながります。

サブウーファーの接続についてはスタートガイド（別紙）、リアスピーカーの接続については以下の手順をご覧ください。

リアスピーカーを追加する

別売のリアスピーカーを2台つなぐことによって、サラウンド音声をより楽しむことができます。

それぞれのリアスピーカーについて以下の手順を行ってください。



1 電源コードをコンセントにつなぐ。

リアスピーカーの電源が入り、本機とワイヤレスでつながれます。

2 リアスピーカーの電源ランプが緑色に点灯していることを確認する。

電源ランプが緑色に点灯しているときは、リアスピーカーと本機の接続は完了しています。

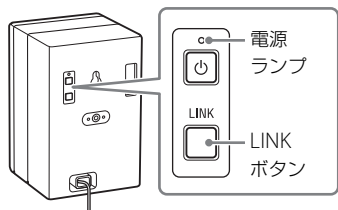
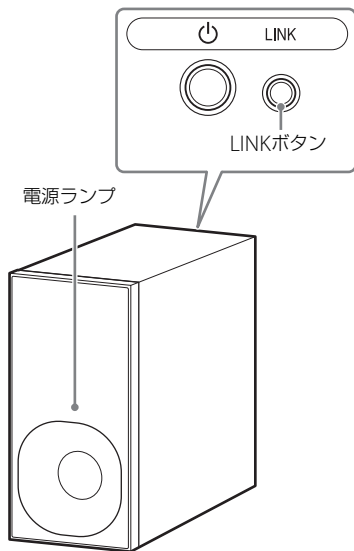
接続できない場合は、「サブウーファー、リアスピーカーを手動でつなぐ」(34ページ)の手順にしたがって手動でリアスピーカーをつないでください。


3 リアスピーカーの左右を確認し、設置する。

背面のラベルを確認して左右の判別をします。「REAR R」が右、「REAR L」が左です。

サブウーファー、リアスピーカーを手動でつなぐ

サブウーファー、別売のリアスピーカーをつなぐことができないとき、または複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに特定のサブウーファー、リアスピーカーとつなぎたいときは、手動で本機とつなぎます。



- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [スピーカー設定] → [ワイヤレススピーカー設定] → [手動リンク開始] を選ぶ。
[手動リンク開始] 画面がテレビ画面に表示されます。

4 つなぎたいすべてのスピーカー（サブウーファー、リアスピーカー）のLINKボタンを押す。

LINKボタンを押したスピーカーの電源ランプが緑色に2回ずつ点滅します。

5 [開始] を選ぶ。

手動リンクの設定を開始します。接続状況がテレビ画面に表示されます。

手動リンクを止めるには、[中止] を選びます。

6 つなぎたいすべてのスピーカー（サブウーファー、リアスピーカー）に [接続済み] が表示されたら、[完了] を選ぶ。

7 決定ボタンを押す。

リンクが完了し、サブウーファー、リアスピーカーの電源ランプが緑色に点灯します。

ご注意

- [手動リンク開始] を行うと、[ワイヤレススピーカー設定] の [リンクモード] は自動的に [手動] に設定されます (69 ページ)。


- 手順6で [完了] を選んだサブウーファー、リアスピーカーだけが本機とつながれません。本機のサブウーファー、リアスピーカーの接続がうまくいかなかった場合は、手動リンクを再度行ってください。

ワイヤレス通信が不安定なとき

無線LANやBLUETOOTH機器など複数のワイヤレス機器をお使いの場合、本機のワイヤレス通信が不安定になることがあります。この場合、[ワイヤレス周波数設定] を変更することで改善することができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [スピーカー設定] → [ワイヤレススピーカー設定] → [ワイヤレス周波数設定] を選ぶ。

4 設定を選ぶ。

- [入] (お買い上げ時の設定) : 通常はこの設定にします。自動的にワイヤレス通信に最適な周波数を選びます。ワイヤレス混線により強いモードですが、お使いの環境により音切れすることがあります。音切れする場合は [切] を選ぶと改善することがあります。
- [切] : 周波数帯を固定します。

次のページへつづく

ご注意

[ワイヤレス周波数設定] を [切] から [入] に切り換えた場合、再接続に1分ほどかかることがあります。

テレビのリモコンが効かないときは

本体がテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。本体が受けたテレビのリモコン信号がテレビに転送され、リモコン操作が可能になります。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [本体設定] → [IRリピーター] を選ぶ。

テレビ画面に [IRリピーター] 画面が表示されます。

4 [入] を選ぶ。

ご注意

- テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、[IRリピーター] を [入] にしてください。操作できるときに [入] にすると、テレビのリモコンからの直接の信号と本体で中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。
- [IRリピーター] を [入] にした場合、テレビによっては本機能が動作しなかったり、エアコンなど他の機器のリモコンが正しく動作しなくなったりすることがあります。その場合は本体やテレビの設置位置を変えてみてください。

テレビを見る

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで□[映像をみる] → [TV] を選ぶ。
- 3 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。
テレビ画面に選んだ番組が表示され、テレビの音声の本機から出力されます。
- 4 音量を調節する。
 - リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
 - リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します (55ページ)。
 - リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します (55ページ)。

ご注意

テレビ(ブラビア)のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

リモコンのTVボタンを押して、テレビ入力を選ぶこともできます。

AV機器を再生する

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで□[映像をみる] → [HDMI1] または [HDMI2] を選ぶ。
 - [HDMI1]: HDMI入力1端子につないだ機器
 - [HDMI2]: HDMI入力2端子につないだ機器テレビ画面に選んだ機器の映像が表示され、音声の本機から出力されます。
- 3 音量を調節する。
 - リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
 - リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します (55ページ)。
 - リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します (55ページ)。

ちょっと一言

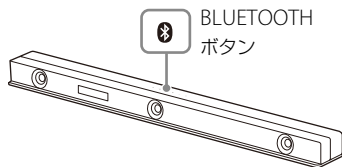
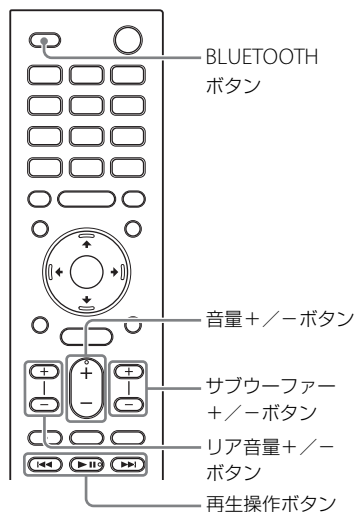
リモコンのHDMI1ボタンまたはHDMI2ボタンを押して、HDMI入力1またはHDMI入力2を選ぶこともできます。

音楽／音声を聞く

BLUETOOTH® 機能で音楽／音声を聞く

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器とBLUETOOTH機能でつないで、モバイル機器に保存しているさまざまな音楽をワイヤレスで聞くことができます。

モバイル機器とBLUETOOTH機能でつなぐ場合は、テレビの電源を入れることなく、本機のリモコンだけでつなぐことができます。

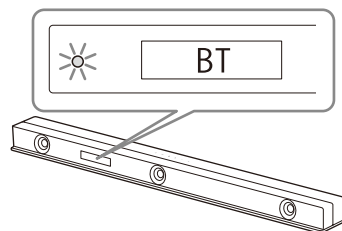


モバイル機器を機器登録（ペアリング）して音楽を聞く

BLUETOOTH機能を使うには、あらかじめ本機でモバイル機器を機器登録（ペアリング）する必要があります。

1 本体のBLUETOOTHボタンを2秒間長押しする。

本機がペアリングモードになり、表示窓に「BT」と表示され、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



2 モバイル機器で機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

モバイル機器の画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。

モバイル機器にBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操

作方法は、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

3 モバイル機器の画面に表示された機器の一覧から「HT-Z9F」を選び、互いの機器を登録する。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

4 本体のBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

5 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本体から音声が出力されます。

6 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（55ページ）。
- リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します（55ページ）。
- リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

BLUETOOTH機能の接続状態を確認する

接続の状態	BLUETOOTH ランプの状態
ペアリング待ち状態	青色に速く点滅
接続待ち状態	青色に点滅
接続完了	青色に点灯

ちょっと一言

- まだ1台もペアリングをしていない場合（本機ご購入直後など）は、BLUETOOTH入りに切り換えるだけでペアリングモードになります。
- BLUETOOTH接続完了後、お使いの機器によってアプリケーションのインストールを促す画面が表示されることがあります。表示に従うと、本機を操作できるアプリケーションSony | Music Centerをインストールできます。Sony | Music Centerについては、「Sony | Music Centerを使う」（47ページ）をご覧ください。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

機器登録（ペアリング）済みのモバイル機器の音楽を聞く

1 モバイル機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 BLUETOOTHボタンを押す。

最後につないだBLUETOOTH機器と自動的につながります。

3 BLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します (55ページ)。
- リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します (55ページ)。
- リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

モバイル機器の接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

- モバイル機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
- テレビ画面に [Bluetooth Audio] 画面が表示されているときに、BLUETOOTHボタンを押す。
- [Bluetoothモード] を [送信] または [切] に設定する (71ページ)。
- 本機またはモバイル機器の電源を切る。

ちょっと一言

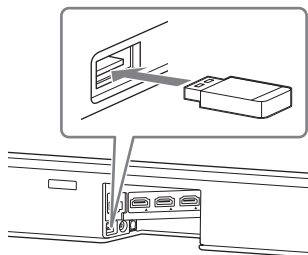
接続が完了しなかった場合、モバイル機器側で、「HT-Z9F」を選んでください。

USB機器の音楽を聞く

USB機器の音楽ファイルを再生できません。

再生可能なファイルについては「再生できる音声ファイルの種類」(91ページ)をご覧ください。

1 USB端子にUSB機器を差し込む。



2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [音楽をきく] → [USB (接続済み)] を選ぶ。

4 曲が保存されているフォルダーを選び、曲を選ぶ。

音楽が再生され本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（55ページ）。
- リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します（55ページ）。

ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。

音楽再生画面の使いかた

◀/▶ボタンを押して、画面上の以下のボタンを選び、決定ボタンを押してください。

- ▶ (再生) / ⏸ (一時停止)
再生を開始、一時停止します。リモコンの▶||ボタンでも操作できます。
- ⏮ (前へ) / ⏭ (次へ)
前または次の音楽ファイルを再生します。リモコンの⏮/⏭ボタンでも操作できます。
- 🔄 (シャッフル再生)
再生順序をシャッフルします。決定ボタンを押すたびにオン/オフを切り換えます。
- 🔁 (リピート再生)
決定ボタンを繰り返し押してリピートモードを切り換えます。

リピートモード 説明

🔁 (全曲リピート)	すべての音楽ファイルを繰り返し再生します。
🔁 (フォルダーリピート)	フォルダー内のすべての音楽ファイルを繰り返し再生します。
🔁 1 (1曲リピート)	再生中の音楽ファイルを繰り返し再生します。
🔁 (オフ)	リピート再生を解除します。

ちょっと一言

再生中にリモコンの⏮/⏭ボタンを押したままにすると、早戻し/早送りできます。

ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く

ホームネットワーク上のパソコンに保存した曲を本機で聞くことができます。

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器でSony | Music Centerを操作して、パソコンの音楽を再生します。

ホームネットワークの準備をする

1 ネットワークにつなぐ。

「有線でネットワークにつなぐ」(26ページ) または「無線でネットワークにつなぐ」(27ページ) をご覧ください。


2 パソコンをネットワークにつなぐ。

操作方法はパソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 パソコンを設定する。

ホームネットワークでパソコンを使うには、パソコンをサーバーとして設定する必要があります。設定方法はパソコンの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

本機のネットワークの接続状況は、 [設定する] → [詳細設定] → [通信設定] → [ネットワークの設定確認] で確認できません。

Sony | Music Centerでパソコンの音楽を聞く




スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器にインストールしたSony | Music Centerを操作してパソコンの曲を再生します。Sony | Music Centerについては、下記のURLをご覧ください。
<http://www.sony.net/smcqa/>

アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音声を聞く

本機のアナログ入力端子につないだテレビやウォークマン®などの音声を聞くことができます。

1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで  [音楽をきく] → [Analog] を選ぶ。
テレビ画面に [Analog] 画面が表示されます。

3 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します (55ページ)。
- リモコンのリア音量+/-ボタンでリアスピーカーの音量を調節します (55ページ)。

ちょっと一言

リモコンのANALOGボタンを押して、アナログ入力を選ぶこともできます。

Spotifyを使う

Spotifyアプリから音楽を選び、本機で再生することができます。

“Spotify Connect”機能を使って本機で音楽を再生する

スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。詳しくはspotify.com/connectをご覧ください。

ちょっと一言

[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] を [入] に設定すると (73ページ)、スタンバイ状態のときもすばやく音楽を再生することができます。

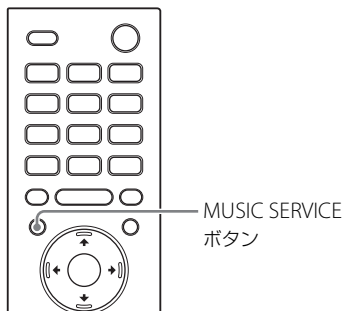
モバイル機器で再生した音楽のつづきを再生する

1 MUSIC SERVICEボタンを押す。

本機でSpotifyの音楽を一度再生していると、Spotifyで聞いていた音楽のつづきが再生されます。詳しくは「MUSIC SERVICEボタンを使う（ミュージックサービス）」（44ページ）をご覧ください。

MUSIC SERVICEボタンを使う（ミュージックサービス）

本機でSpotifyの音楽を一度再生していると、Spotifyで聞いていた音楽のつづきを再生することができます。ミュージックサービスを楽しむには、本機をインターネットにつないでいる必要があります。



MUSIC SERVICEボタンを押す。

Spotifyで聞いていた音楽のつづきが再生されます。詳しくは「Spotifyを使う」（43ページ）をご覧ください。

ご注意

つづきが再生されない場合は、本機で最後に再生したプレイリストが再生されます。

Chromecast built-inを使ってス トリーミングサービ スの音楽を聞く

本機はモバイル機器から音楽をスピーカーにストリーミングすることができるChromecast built-inに対応しています。Chromecast対応アプリから音楽コンテンツを選び、本機または本機が含まれるグループで再生することができます。

本機とモバイル機器の準備 をする

本機でChromecast built-inを使うための設定をして、モバイル機器に対応アプリをインストールしてください。

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで **🎵** [音楽をきく] → [Chromecast built-in] を選ぶ。
画面の指示にしたがって、本機でChromecast built-inを使うための設定を行ってください。
設定を行うと、[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] が [入] になり、本機がスタンバイ状態でもすばやく音楽を再生することができます (73ページ)。

- 3 本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。
- 4 モバイル機器にChromecast対応アプリをインストールする。

モバイル機器を操作して音 楽を聞く

- 1 Chromecast対応アプリを起動し、キャストアイコンをタップして、本機または本機が含まれているグループを選ぶ。



- 2 Chromecast対応アプリで音楽を選び、再生する。
本機で音楽が再生されます。

Googleアシスタント搭載 製品に話しかけて本機で音 楽を聞く

Google HomeアプリでGoogleアシスタント搭載製品と本機を連携させると、Googleアシスタント搭載製品に話しかけて本機で音楽を再生できます。詳しくはGoogle Homeアプリをご確認ください。

Alexa搭載端末に話しかけて本機で音楽を聞く

Alexaは、音声によってソニー機器を操作できるAmazonのクラウドベースの音声サービスです。Amazon Alexa搭載端末を使ってAlexaに話しかけて、音楽の再生、一時停止、再生再開などの操作をすることができます。

この機能を使うには、あらかじめAmazon Alexa搭載端末をAmazonアカウントに登録する必要があります。

本機とモバイル機器の準備をする

モバイル機器と本機を同じWi-Fiネットワークにつなぎ、本機をAmazonアカウントに登録します。

1 本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。


2 モバイル機器に無料アプリSony | Music Centerをインストールする。

お使いのモバイル機器で、Google Play (Playストア) またはApp StoreでSony | Music Centerを検索して、インストールしてください。

3 Sony | Music Centerを起動して、本機を選ぶ。

4 Sony | Music Centerの画面の指示にしたがって設定する。

ちょっと一言

- 設定した内容は、 [設定する] → [詳細設定] → [Amazon Alexa設定] で確認できます (74ページ)。
- Amazonアカウントから本機の登録を解除するには、Sony Music | Centerを使用して行ってください。Alexaアプリで登録解除の操作を行っても本機では登録解除されたことを認識できません。

Alexa搭載端末に話しかけて本機を操作する

Alexaに話しかけて、対応しているストリーミングサービスの音楽を再生したり、本機の音量を調節したりできます。

音声で本機を操作できる内容や話しかけかたについては、Sony | Music Centerをご覧ください。

Sony | Music Centerを使う

Sony | Music Centerとは、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から、Sony | Music Center対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

Sony | Music Centerについて詳しくは、下記のURLをご覧ください。
<http://www.sony.net/smcqa/>

1 モバイル機器に無料アプリ Sony | Music Centerをインストールする。

お使いのモバイル機器で、Google Play (Playストア) またはApp StoreでSony | Music Centerを検索して、インストールしてください。

2 本機とモバイル機器をBLUETOOTH機能 (38ページ) またはネットワーク機能でつなぐ (26ページ)。

3 Sony | Music Centerを起動する。

4 Sony | Music Centerの画面の指示にしたがって操作する。

ご注意

- Sony | Music Centerをお使いになる前に、[Bluetoothモード] が [受信] になっていることをご確認ください (71ページ)。
- Sony | Music Centerは最新版をご利用ください。詳しくは、Google Play (Playストア) またはApp Storeをご覧ください。本機とBLUETOOTH機器をBLUETOOTH接続できない場合は、Sony | Music Centerをアンインストールして再度BLUETOOTH接続をお試しください。

ちょっと一言

ネットワークでつなぐ場合は、本機と同一のネットワークにモバイル機器をつないでください。

ワイヤレスマルチ ルーム対応の他機 器とつなぐ（ワイ ヤレスマルチルー ム）

ワイヤレスマルチルーム対応のワイヤレススピーカーを組み合わせることで、いろいろな部屋で音楽を再生することができます。

Wireless Multi-room



ご家庭のWi-Fiネットワークを利用して、以下の機器の音楽や音声をさまざまな部屋で高音質で楽しめます。

- ミュージックサービスの音楽
- パソコンやスマートフォンに保存した音楽
- 本機の [TV] (BLUETOOTH接続含む)、[HDMI1]、[HDMI2]、[Bluetooth Audio]、[USB] または [Analog] 入力の音声*

* 本機につないだ機器の音声を楽しめます。これらの入力の音声を再生すると、他のスピーカーの音声と同期するため、

本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のずれが気になる場合は、以下をお試しください。

- HDMI1、HDMI2入力の場合：オプションボタンを押し、[Multi-room Sync] を [Off] にしてください。
- テレビ入力またはアナログ入力の場合：オプションボタンを押してから、**▲/▼**ボタンで表示窓に「MSYNC」を表示させて決定ボタンを押し、**▲/▼**ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押してください。

本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

操作は、モバイル機器にインストールしたSony | Music Centerを使って行います。

Sony | Music Center対応機器を複数使うには、それらを同じ無線LANにつなぐ必要があります。

Sony | Music Centerで設定する

Sony | Music Centerのヘルプの指示にしたがって設定してください。

ご注意

- Chromecast built-in搭載機器間で同じ曲を再生するには、Chromecast対応アプリをお使いください（45ページ）。
- Alexa対応機器間で同じ曲を再生するには、Alexaアプリをお使いください。
- ワイヤレスマルチルーム機能使用中に [Bluetooth Audio] 入力を選ぶと、BLUETOOTH機器と再接続することがあります。
- ワイヤレスマルチルーム機能使用中は、HDMIの音声入力に制限がかかることがあります。


ちょっと一言

Sony | Music Centerについては、下記のURLをご覧ください。
<http://www.sony.net/smcqa/>

テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く

ヘッドホンとBLUETOOTH機能でつないで、本機につないだテレビや他機器の音声をヘッドホンで聞くことができます。

ヘッドホンと機器登録（ペアリング）して聞く

- 1** BLUETOOTH対応ヘッドホンをペアリングモードにする。
機器登録（ペアリング）については、ヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 2** ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 3** ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。
- 4** [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] → [送信] を選ぶ。
本機がBLUETOOTH送信モードになります。

5 [Bluetooth設定] → [機器リスト] からヘッドホンの機器名を選ぶ。

BLUETOOTH接続が完了すると、[Bluetooth機器を接続しました。]と表示されます。

[機器リスト] にヘッドホンの機器名が見つからない場合は、[検索] を選んでください。

6 ホームメニューに戻り、 □[映像をみる] または 🎵[音楽をきく] を選び、 入力を選ぶ。

選んだ入力にテレビ画面が切り換わり、表示窓に「BT TX」と表示され、ヘッドホンから音声が出力されます。

本機から音は出なくなります。入力の選びかたについては、「映像を見る」(37ページ) または「音楽／音声を聞く」(38ページ) をご覧ください。


7 音量を調節する。

最初にヘッドホンを適度な音量にします。ヘッドホンにつないだ状態では、本体の+/-ボタンやリモコンの音量+/-ボタンで、ヘッドホンの音量を調節できません。

ペアリングした機器を機器リストから削除する

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [Bluetooth設定] → [機器リスト] を選ぶ。

4 ヘッドホンの機器名にカーソルを合わせ、オプションボタンを押す。


5 [削除] を選ぶ。

6 テレビ画面の指示にしたがってヘッドホンを機器リストから削除する。

機器登録 (ペアリング) 済みの ヘッドホンで聞く

1 ヘッドホンの
BLUETOOTH機能をオン
にする。

2 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

4 [Bluetooth設定] →
[Bluetoothモード] →
[送信] を選ぶ。

本機がBLUETOOTH送信モードになり、最後につないだヘッドホンに自動的につながります。

5 ホームメニューに戻り、 □[映像をみる] または 🔊[音楽をきく] を選び、入 力を選ぶ。

選んだ入力にテレビ画面が切り換わり、表示窓に「BT TX」と表示され、ヘッドホンから音声が出力されます。

本機から音は出なくなります。入力の選びかたについては、「映像を見る」(37ページ) または「音楽／音声を聞く」(38ページ) をご覧ください。

6 音量を調節する

ヘッドホンの音量を適度な音量にします。

本機のリモコンの音量+/-ボタンで音量を調節することもできます。

ヘッドホンの接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

－ヘッドホンのBLUETOOTH機能をオフにする。

－[Bluetoothモード] を [受信] または [切] に設定する (71ページ)。

－本機またはヘッドホンの電源を切る。

－🔊 [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [機器リスト] で接続中のヘッドホンの機器名を選ぶ。

機器名の [接続中] の文字が表示されなくなります。

ヘッドホンの接続について

- BLUETOOTH対応ヘッドホンによっては音量を調節できない場合があります。
- [Bluetoothモード] が [切] または [送信] になっているときは BLUETOOTH入力が無効になります。
- BLUETOOTH機器は9台まで登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台の中で接続履歴の最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- BLUETOOTH機器は [機器リスト] に15台まで表示することができます。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンに音声を送信している場合は、サウンド効果の設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力されることがあります。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンが SCMS-T非対応の場合は、音声を出力できない場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、本機側の再生に比べて受信側での音声・音楽再生が遅れます。
- 送信される音声に、LDACコーデックを使用するかどうかを変更することができます (72ページ)。

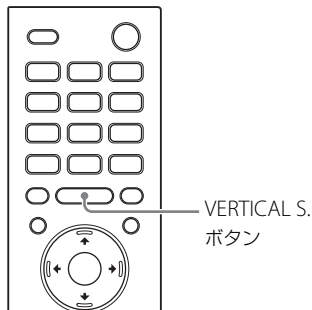
音質を調整する

上から包まれる臨場感を体験する (VERTICAL S.)

ニュース以外のサウンドモード（53ページ）に対してVertical Surround Engine*が効果的に働き、横からだけでなく上からも包み込まれるような体験ができます。テレビ放送などに多い2.0チャンネル信号に対しても動作します。

* Vertical Surround Engineとは、ソニー独自の高精度なデジタル音場処理技術で、トップスピーカーを配置せずに、前方のスピーカーだけで平面方向の音場に加え、仮想的に高さ方向の音場を再現します。

天井にスピーカーを配置する必要がなく、天井の高さによらず豊かな臨場感を楽しめます。また、壁面からの反射音を利用しないため、部屋の形状の影響を受けにくく、良好なサラウンド再生を可能にします。



1 VERTICAL S.ボタンを押す。

テレビ画面にVertical Surround設定が表示されます。

2 VERTICAL S.ボタンを繰り返し押し続けて設定を選ぶ。

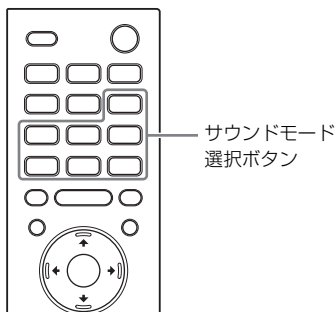
モード	説明
[On]	Vertical Surround機能を有効にします。
[Off]	Vertical Surround機能を無効にします。

ご注意

- 音源により、全方位からのサラウンド効果は異なります。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にVertical Surround設定が表示されません。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドモード）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選べます。



- 1 サウンドモード選択ボタン（オートサウンド、シネマ、ミュージック、ゲーム、ニュース、スポーツ、スタンダード）を押してサウンドモードを選ぶ。

テレビ画面に選んだサウンドモードが表示されます。

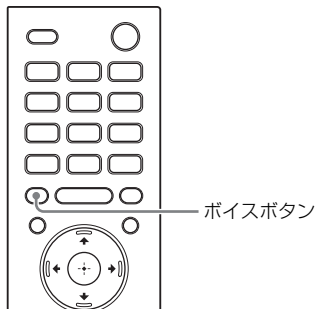
サウンドモード	説明
オートサウンド [Auto Sound]	再生するコンテンツに合ったおすすめ音設定に自動的に切り換わります。

サウンドモード	説明
シネマ [Cinema]	後方へ回り込む音や音場に包まれる没入感を体験することができます。映画を楽しむときに適しています。
ミュージック [Music]	楽器や声の生々しさやつやなどがきめ細かく表現され、音楽をより感動的に楽しむときに適しています。
ゲーム [Game Studio]	物体の移動感と距離感を忠実に再現しながら、セリフが明瞭に聞こえることでゲームの世界に没入できます。
ニュース [News]	人の声がクリアに聞こえるため、ニュースなどのテレビ番組を視聴する際に適しています。
スポーツ [Sports]	スタジアムで観戦しているかのような雰囲気を感じながらも、解説者のナレーションもクリアに視聴することができます。
スタンダード [Standard]	ジャンルを問わず、サラウンド感を体感する際に適しています。

ご注意

- 以下の場合はサウンドモード機能は使えません。
 - [サウンドエフェクト] が [サウンドモード 入] 以外に設定されているとき (70ページ)
 - Chromecast built-in使用中 (45ページ)
 - Amazon Alexa使用中 (46ページ)
 - ワイヤレスマルチルーム使用中 (48ページ)
 - BLUETOOTH送信モードで BLUETOOTH機器とつないでいるとき (49ページ)
 - テストトーン出力中 (65ページ)
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にサウンドモードが表示されません。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

セリフを聞きやすくする (ボイス)



1 ボイスボタンを押す。

テレビ画面にボイスモードが表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、ボイスモードを選ぶ。

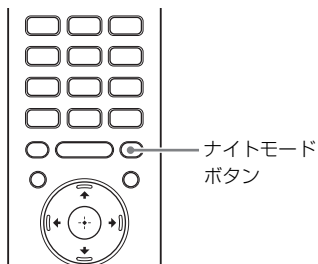
モード	説明
[Up Off]	標準
[Up 1]	セリフを強調し、聞こえやすくします。
[Up 2]	セリフの強調に加え、高域の周波数も強調します。

ご注意

テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にボイスモードが表示されません。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ (ナイトモード)

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



- 1 ナイトモードボタンを押す。
テレビ画面にナイトモードが表示されます。
- 2 ボタンを繰り返し押し続けて、ナイトモードを選ぶ。

モード	説明
[On]	ナイトモード機能を有効にします。
[Off]	ナイトモード機能を無効にします。

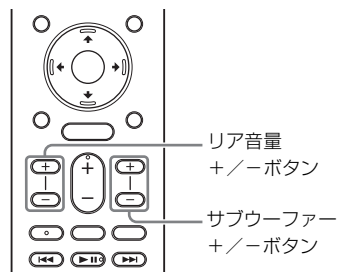
ご注意

- 本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的に [Off] に設定されます。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にナイトモードが表示されません。

サブウーファー、リアスピーカーの音量を調節する

サブウーファーは低音を再生するためのスピーカーです。

リアスピーカーはマルチチャンネルサウンドのサラウンド部分を再生、または2チャンネルサウンドからバーチャル処理でサラウンドを再生するためのスピーカーです。



サブウーファーの音量を調節する
サブウーファー+/-ボタンを押します。

リアスピーカーの音量を調節する
リア音量+/-ボタンを押します。

ご注意

- テレビ放送などの低音の少ない入力では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。
- サラウンド成分の少ない入力では、リアスピーカーからサラウンド成分の音が聞こえにくいことがあります。
- サブウーファーをつないでいないときは、サブウーファー+/-ボタンは効きませ

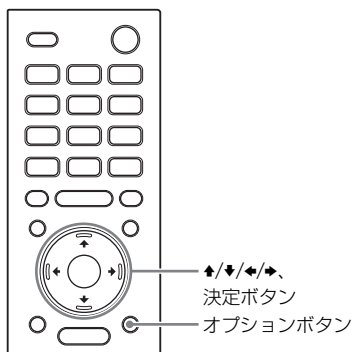
ん。また、リアスピーカーをつないでいないときは、リア音量+/-ボタンは効きません。

- 入力信号とサウンドモードの処理結果によりリアスピーカーから音が出ない場合は、リア音量+/-ボタンは効きません。

音声と映像のずれを調節する

つないだテレビや機器によっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、音声を遅らせることでずれを調節することができます。

入力によって調節のしかたが違います。



テレビを視聴しているときに調節する

- 1 オプションボタンを押す。**
本機の表示窓に「SYNC」と表示されます。
- 2 ➡ボタンまたは決定ボタンを押す。**
表示窓に音声と映像のずれを調節する時間が表示されます。

3 ▲/▼ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

0 msec~300 msecの間で25 msecきざみで調節できます。

4 オプションボタンを押す。元の表示に戻ります。

他機器を視聴しているときに調節する

1 オプションボタンを押す。 テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

2 [A/V Sync] を選ぶ。

3 ▲/▼ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

0 msec~300 msecの間で25 msecきざみで調節できます。

ちょっと一言

テレビに音声と映像のずれをを調節する機能がある場合は、そちらをご使用ください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度で再生する (DSEE HX)

圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、録音スタジオやコンサート会場にいるような臨場感を再現します。

1 ホームボタンを押す。 テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

3 [音声設定] → [DSEE HX] を選ぶ。

4 [入] を選ぶ。

ご注意

- サウンドモードでオートサウンド*またはミュージックが選ばれているときに働きます (53ページ)。
- 44.1 kHz または 48 kHzの2チャンネルデジタル入力信号入力時に働きます。
- アップスケール後のサンプリング周波数 / ビット深度は、最大96 kHz / 24 bit となります。
- DSD信号時には無効となります。
- Chromecast built-in使用中は、この機能は働きません。

- [入力レベル自動調整] が [入] に設定されているときは、この機能は働きません (70ページ)。
- * オートサウンドでミュージックが選ばれているときのみ。

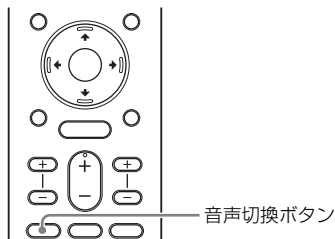
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているAAC音声方式で放送されています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル (別売) でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がeARCまたはARC機能 (62ページ) に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

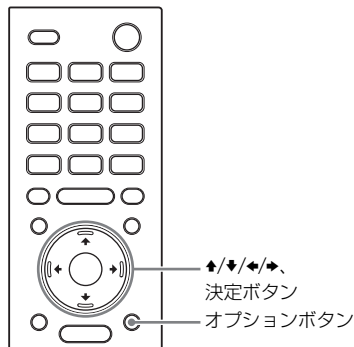


- 1 音声切換ボタンを押す。
表示窓に音声信号が表示されます。
- 2 ボタンを繰り返し押し、音声信号を選ぶ。

音声信号	説明
「MAIN」	主音声を再生します。
「SUB」	副音声を再生します。
「MN/SB」	主音声と副音声をミックスして再生します。

DTS:X再生中にセリフの音量を調節する

セリフの音量を調節することにより、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくします。この機能はDTS:Xダイアログコントロールに対応したコンテンツを再生しているときに働きます。入力によって調節のしかたが違います。



テレビで再生中に調節する

- 1 オプションボタンを押し、
↑/↓ボタンで本体表示窓に
「DIALOG」を表示させて
決定ボタンを押す。

- 2 **▲/▼ボタンでセリフの音量レベルを調節し、決定ボタンを押す。**

0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざみで調節できます。

- 3 **オプションボタンを押す。**
元の表示に戻ります。

AV機器で再生中に調節する

- 1 **オプションボタンを押す。**
テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

- 2 **[Dialog Control] を選ぶ。**

- 3 **▲/▼ボタンでセリフの音量レベルを調節し、決定ボタンを押す。**

0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざみで調節できます。

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能*対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（プレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）、ハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応））（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作が簡単にできます。HDMI機器制御機能では下記の機能が使えます。


- 電源オフ連動
- システムオーディオコントロール
- eARC/ARC（Enhanced Audio Return Channel/Audio Return Channel）
- ワンタッチプレイ
- テレビリモコンからのメニュー操作
- HDMI信号スタンバイスルーの省電力設定
- 言語設定連動

ご注意

これらの機能は他社製の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

* HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

HDMI機器制御機能の準備をする


 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] にしてください（70ページ）。お買い上げ時の設定は [入] です。本機につないだテレビと機器のHDMI機器制御機能の設定を有効にしてください。

ちょっと一言

ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御（“ブラビアリンク”）機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。設定が完了すると、表示窓に「DONE」が表示されます。

電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [電源オフ連動] を [する] または [自動] にしてください（70ページ）。お買い上げ時の設定は [自動] です。

ご注意

機器の状態によっては、本機につないだ機器の電源が切れない場合があります。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、音声は本機のスピーカーから出力されます。


テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合、テレビの電源を入れても本機の電源が連動して入らないことがあります。

eARC／ARC (Enhanced Audio Return Channel／Audio Return Channel)

テレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子に本機をつないだ場合は、光デジタル音声ケーブルをつなぐずにテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [TV音声入力モード] を [自動] にしてください (71ページ)。[自動] に設定すると、eARCまたはARCの音声が優先されます。お買い上げ時の設定は [自動] です。


ご注意

- テレビのeARC機能またはARC機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- eARCまたはARCに対応していないテレビの場合は、光デジタル音声ケーブル (別売) の接続が必要です。(スタートガイド (別紙) 参照)

ワンタッチプレイ

本機につないだ機器 (ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4 など) のコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、本機の入力は再生した機器の入力に切り換わり、音声は本機のスピーカーから出力されます。

ご注意

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] が [入] または [自動] に設定されていて、かつ、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合、テレビによっては機器のコンテンツを再生しても本機の電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されることがあります (70ページ)。
- テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリンクメニューから本機を選んで、本機を操作することができます。


この機能はテレビがリンクメニューに対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビのリンクメニューで、本機は「プレイヤー」としてテレビに認識されます。
- テレビによっては、一部の操作が行えないことがあります。

HDMI信号スタンバイスルーの省電力設定

HDMI信号スタンバイスルー（70ページ）とは、本機の電源を入れることなく、本機につないだ機器の音声や映像をテレビで楽しむことができる機能です。

 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [自動] に設定すると、本機の待機電力を削減することができます（70ページ）。お買い上げ時の設定は [自動] です。

ご注意

本機につないだ機器の映像がテレビに表示されない場合は、[スタンバイスルー] を [入] に設定してください。他社製のテレビにつないだ場合にこの設定をおすすめします。

言語設定連動

本機の電源が入っているとき、テレビ画面上の言語設定を変更すると、本機の [OSD表示言語] も連動して切り替わります。

"ブラビアリンク" を使う

"ブラビアリンク" 対応の機器では、HDMI機器制御機能の他に下記の機能も使うことができます。

- オートジャンルセレクター
- 音質モード／シーンセレクト連動
- オーディオ機器コントロール

ご注意

これらの機能はソニー独自の機能です。他社製の機器では使えません。

オートジャンルセレクター

視聴している番組情報（EPG情報）を検出し、本機のサウンドモード（53ページ）をその番組のジャンルに合わせて自動的に切り換え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。

この機能はテレビやつないだ機器がオートジャンルセレクターに対応している場合に使えます。詳しくはテレビや機器の取扱説明書をご覧ください。サウンドモードをオートサウンドにしてください（53ページ）。

ご注意

番組情報（EPG情報）に応じてサウンドモードが切り換わるときに音が途切れることがあります。

音質モード／シーンセレクト連動

テレビの音質モード／シーンセレクトの設定に応じて、本機のサウンドモードを自動的に切り換えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

サウンドモードをオートサウンドにしてください（53ページ）。

オーディオ機器コントロール


オーディオ機器コントロール対応テレビをご使用の場合、テレビの入力を切り換えることなく、本機の設定、サウンドモードの設定、入力切り換えなどができます。

この機能はテレビがインターネットにつながれている場合に使えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

設定を変更する

スピーカーの設定
をする

サラウンド音声を十分に楽しむために、視聴位置からスピーカーまでの距離やスピーカーの音量を設定します。お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。
- 3 [スピーカー設定] → [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。
[マニュアルスピーカー設定] 画面がテレビ画面に表示されます。
- 4 スピーカー設定を行う。
⬅/➡ボタンと決定ボタンを使って、以下から設定したい項目を選び、スピーカーの設置環境に合わせて設定値を設定します。

[距離]

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。

0 m～10 mの範囲で設定できます (0.1 mきざみ)。

[フロント]：フロントスピーカーの距離を設定します。

[サブウーファー]：サブウーファアの距離を設定します。

[リアスピーカー (左)] *：リアスピーカー (左) の距離を設定します。

[リアスピーカー (右)] *：リアスピーカー (右) の距離を設定します。

* リアスピーカーを使っているときのみ表示されます。

[レベル]

スピーカーの音量レベルを調節します。

−6.0 dB～6.0 dBの範囲で設定できます (0.5 dBきざみ)。

[フロント]：フロントスピーカーのレベルを設定します。

[サブウーファー]：サブウーファアのレベルを設定します。

[リアスピーカー (左)] *：リアスピーカー (左) のレベルを設定します。

[リアスピーカー (右)] *：リアスピーカー (右) のレベルを設定します。

* リアスピーカーを使っているときのみ表示されます。

[テストトーン]

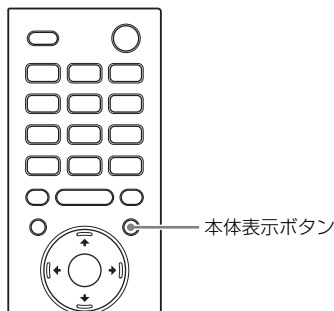
使用できるスピーカー確認のために、スピーカーからテストトーンを出力します。

[切]：テストトーンは出力されません。

[入]：テストトーンを出力します。

表示窓と BLUETOOTHランプの明るさを調整する（本体表示）

表示窓とBLUETOOTHランプの明るさを調節できます。



ご注意

「OFF」を選ぶと表示窓が消灯します。いずれかのボタンを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。表示窓が消えない場合もありますが、その場合の明るさは「DARK」と同じです。

- 1 本体表示ボタンを押す。**
表示窓に本体表示モードが表示されます。
- 2 ボタンを繰り返し押して、本体表示モードを選ぶ。**

モード	説明
「BRIGHT」	表示窓とBLUETOOTHランプは明るく点灯します。
「DARK」	表示窓とBLUETOOTHランプは暗く点灯します。
「OFF」	表示窓は消灯します。


スタンバイ時の待機電力をおさえる

スタンバイ時の消費電力をおさえるには、以下の設定をします。

- － [スタンバイスルー] を [切] にする (70ページ)。
- － [ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] を [切] にする (73ページ)。

かんたん設定を行う

[かんたん設定] で、本機の基本的な設定、スピーカー設定やネットワーク設定を簡単に行うことができます。

- 1 ホームボタンを押す。**
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する] → [かんたん設定] を選ぶ。**
[かんたん設定] 画面がテレビ画面に表示されます。
- 3 設定したい項目を選ぶ。**
 - [かんたん初期設定]：本機の基本的な設定（スピーカー設定、ネットワーク設定を含む）を行います。
 - [かんたんスピーカー設定]：基本的なスピーカー設定を行います。
 - [かんたんネットワーク設定]：基本的なネットワーク設定を行います。
- 4 テレビ画面の指示にしたがって設定を行う。**

詳細設定をする

画像や音声などのさまざまな設定をおこなうことができます。
[詳細設定] の説明では、お買い上げ時の設定に下線がついています。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

テレビ画面に [詳細設定] 画面が表示されます。

3 お好みの設定を選ぶ。

設定項目	できること
 [スピーカー設定]	スピーカーやサブウーファースの設置や接続に関する設定をします。(69ページ)
 [音声設定]	音声の出力に関する設定をします。(69ページ)
 [HDMI設定]	HDMIに関する設定をします。(70ページ)
 [Bluetooth設定]	BLUETOOTH機能の詳細設定をします。(71ページ)
 [本体設定]	本体に関する設定をします。(72ページ)
 [通信設定]	インターネットとホームネットワークの詳細設定をします。(74ページ)
 [Amazon Alexa設定]	本機をAlexa搭載端末で操作するために設定した情報を確認できます。(74ページ)
 [設定初期化]	本体の設定を初期化します。(75ページ)
 [ソフトウェアアップデート]	本体、サブウーファース、リアスピーカースのソフトウェアを最新のバージョンにアップデートします。(75ページ)

8 [スピーカー設定]

[マニュアルスピーカー設定]

サラウンド音声を十分に楽しむために、スピーカーを設定します。詳しくは「スピーカーの設定をする」(65ページ)をご覧ください。

[ワイヤレススピーカー設定]

ワイヤレススピーカー(サブウーファー、リアスピーカー)の接続設定をします。

- [リンクモード]
サブウーファー、リアスピーカーのつなぎかたを設定します。
[自動]: サブウーファー、リアスピーカーを自動でつなぎます。
[手動]: サブウーファー、リアスピーカーを手動でつなぎます。
- [手動リンク開始]
サブウーファー、リアスピーカーを本機と手動でつなぎます。詳しくは「サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ」(33ページ)をご覧ください。
- [ワイヤレススピーカー接続確認]
サブウーファー、リアスピーカーの接続状態を確認します。
- [ワイヤレス周波数設定]
他の無線機器との干渉を減らします。詳しくは「ワイヤレス通信が不安定なとき」(35ページ)をご覧ください。

- [ワイヤレス再生品質]
サブウーファー、リアスピーカーの再生品質を設定します。

[音質優先]: ワイヤレスの接続状況より音質を優先します。

[接続優先]: 音質より接続状況を優先します。

- [ソフトウェアバージョン]
サブウーファー、リアスピーカーのソフトウェアのバージョンを確認します。

9 [音声設定]

[DSEE HX]

この機能はサウンドモードがオートサウンド*またはミュージックのときに働きます。

[入]: 圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケールし、圧縮により失われがちな高音域をクリアに再現します(57ページ)。

[切]: この機能を使いません。

* オートサウンドでミュージックが選ばれているときのみ。

[オーディオDRC]

音声信号のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量の幅)を圧縮して、小さな音を聞きとりやすくします。

[自動]: Dolby TrueHDでエンコードされた音声を自動的に圧縮します。

[入]：ドルビーやDTS音声をレコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで再生します。

[切]：この機能を使いません。

【サウンドエフェクト】

サウンドモードなどのサウンドエフェクトの設定をします。

【サウンドモード入】：Vertical Surround Engineがサラウンドとハイトスピーカーチャンネル音声を強調することによって、サウンドモード(53ページ)やVertical Surround(52ページ)などの包み込まれるような臨場感のあるバーチャルサラウンドエフェクトを実現します。

【ドルビー・スピーカー・バーチャライザー】：ドルビーフォーマット再生中、ドルビー・スピーカー・バーチャライザーがサラウンドとハイトスピーカーチャンネル音声を強調することによって、包み込まれるような臨場感のあるバーチャルサラウンドエフェクトを実現します。ドルビーフォーマット以外を再生している場合は無効となります。

[切]：サウンドエフェクトを無効にします。サンプリング周波数の上限を設定したくないときに選びます。

【入力レベル自動調整】

入力信号による音量の変化を小さくします。例えばコマースルの音量が番組の音量より大きい場合などに有効です。

[入]：自動で音量を調節します。

[切]：この機能を使いません。

ご注意

音楽を聞く際には適していません。

☰【HDMI設定】

【HDMI機器制御】

【入】：HDMI機器制御機能を有効にします。HDMIケーブルでつないだ機器を相互に操作することができます。

[切]：この機能を使いません。

【電源オフ連動】

この機能は【HDMI機器制御】を【入】にすると使えます。

【自動】：本機の入力が【TV】、【HDMI1】、【HDMI2】のときのみ、テレビの電源を切ると本機の電源も連動して切れます。

[する]：本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

[しない]：本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切っても本機の電源は連動しません。

【スタンバイスルー】

この機能は【HDMI機器制御】を【入】にすると使えます。

【自動】：本機の電源が入っていないとき、テレビの電源が入っていれば、本機のHDMI出力(TV eARC/ARC)端子から信号を出力します。つないだテレビの電源を切ると、【入】よりも本

機の待機電力を抑えることができます。

[入]：本機の電源が入っていないとき、常に本機のHDMI出力（TV eARC/ARC）端子から信号を出力します。他社製のテレビにつないだ場合、この設定をおすすめします。

[切]：本機の電源が入っていないとき、本機のHDMI出力（TV eARC/ARC）端子から信号を出力しません。本機につないだ機器のコンテンツをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。[入] よりも本機の待機電力を抑えることができます。

[TV音声入力モード]

本機をテレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子につないでいる場合に設定します。[HDMI機器制御] を [入] にすると使えます。

[自動]：テレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。[自動] に設定すると、eARCまたはARCの音声優先されます。

[光デジタル (OPT)]：光デジタル音声ケーブルをつないだ場合は、この設定にします。

[eARC]

本機をテレビのeARC対応HDMI入力端子につないでいるときに設定します。ARC対応テレビ（eARC非対応テレビ）につないでいるときは、この設定に関係なくARC機能が働きます。

[入]：eARC機能を有効にします。eARC対応テレビにつないでいるとき、eARC機能が働きます。

[切]：eARC機能を使いません。

ご注意

[eARC] を [入] に設定したときは、テレビのeARC設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

[HDMI信号フォーマット]

入力しているHDMI信号のフォーマットを設定します。詳しくは「4K映像コンテンツを見るための設定をする」（24ページ）をご覧ください。

[Bluetooth設定]

[Bluetoothモード]

BLUETOOTH機器の音声を本機で聞いたり、BLUETOOTH対応ヘッドホンで本機の音声を聞くことができます。

[受信]：本機が受信モードになり、BLUETOOTH機器からの音声を本機で出力します。

[送信]：本機が送信モードになり、本機の音声がBLUETOOTH対応ヘッドホンへ送信され、本機の入力を切り換えると表示窓に「BT TX」と表示されます。

[切]：本機のBLUETOOTH機能がオフになり、[Bluetooth Audio] 入力が選べません。

[機器リスト]

[Bluetoothモード] が [送信] になっているときに、接続履歴および検出されたBLUETOOTH機器のリストが表示されます。

[Bluetooth Codec–AAC]

この機能は [Bluetoothモード] が [受信] に設定されているときに使えます。

[入] : AACコーデックが有効になります。

[切] : AACコーデックが無効になります。

ご注意

お使いの機器がAACをサポートしている場合にAACを有効にすると、高音質で楽しめます。

[Bluetooth Codec–LDAC]

この機能は [Bluetoothモード] が [受信] か [送信] に設定されているときに使えます。

[入] : LDACコーデックが有効になります。

[切] : LDACコーデックが無効になります。

ご注意

- お使いの機器がLDACをサポートしている場合にLDACを有効にすると、高音質で楽しめます。
- BLUETOOTH機器と接続中は、設定を変更することができません。

[ワイヤレス再生品質]

LDAC再生のデータ転送レートを設定できます。この機能は [Bluetoothモード] が [送信] に設定された状態で、[Bluetooth Codec–LDAC] が [入] に設定されているときに使えます。

[音質優先] : 高ビットレートが使われます。音声は高音質で送信されますが、接続状況がよくないとき音声の再生が不安定になることがあります。オーディオ再生が不安定なときは、[自動] を選んでください。

[自動] : ご使用の環境によってデータの転送速度が自動で変わります。

目 [本体設定]

[OSD表示言語]

テレビ画面で表示される本機の画面の言語を選ぶことができます。

[IRリピーター]

[入] : テレビのリモコン信号が本体背面から送信されます。

[切] : この機能を使いません。
詳しくは、「テレビのリモコンが効かないときは」(36ページ) をご覧ください。

【ネットワーク／Bluetoothスタンバイ】

【入】：ネットワーク経由またはBLUETOOTH機能で本機の電源を入れることができます。

【切】：本機の待機電力を抑えることができます。本機の電源を入れた後、サブウーファーやリアスピーカーから音声が出力されるまで時間がかかることがあります。

ご注意

- Chromecast built-inを使うことに同意すると、[ネットワーク／Bluetoothスタンバイ] は自動的に【入】になります。
- [ワイヤレス周波数設定] を【入】にすると (35ページ)、[ネットワーク／Bluetoothスタンバイ] は自動的に【入】になります。

【自動電源オフ】

【入】：[自動電源オフ] を有効にします。何も操作されないまま無入力状態で約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

【切】：この機能を使いません。

【ソフトウェアアップデート通知】

【入】：本機のソフトウェア最新バージョン情報を通知します (75ページ)。

【切】：通知しません。

【自動アップデート設定】

- [自動アップデート]

【入】：ソフトウェアアップデートは選んだ [タイムゾーン] の現地時間午前2時～5時の間で、本機を使用していない間に自動的に実行されます。ただし、[ネットワーク／Bluetoothスタンバイ] が【切】に設定されている場合は、本機の電源を切った直後に実行されます。

【切】：この機能を使いません。

- [タイムゾーン]

お住まいの地域／都市を選んでください。

ご注意

- ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート] が【切】に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。
- ソフトウェアアップデートはアップデートの公開から11日以内に自動的に実行されます。

【機器名設定】

次の機能を使うときに表示される本機の名前を、わかりやすい名前に変更できます。

- BLUETOOTH機能
- ホームネットワーク
- Spotify
- Chromecast built-in

テレビ画面の説明に従い画面のキーボードを使って名前を入力してください。

本機の名前を日本語で表示させたい場合は、Google Homeアプリから設定してください。

【本体情報】

本機のソフトウェアバージョンと、MACアドレスを確認できます。

【プライバシーの設定】

本機には、機器の使用状況を収集する機能が搭載されています。設定時に表示されるプライバシーポリシーをご確認いただき、情報収集の可否を設定してください。

[承諾する]：機器の使用状況の情報収集に同意する場合に選んでください。

[承諾しない]：機器の使用状況の情報収集に同意しない場合に選んでください。

ちょっと一言

[承諾する]を選んでも [承諾しない] を選びなおす、または [設定初期化] (75ページ) で [本体設定] をお買い上げ時の設定に戻すと、情報収集を中止できます。

【ソフトウェアライセンス】

ソフトウェア使用許諾契約を表示します。

🌐【通信設定】

【ネットワーク設定】

本機をネットワークにつなぎます。

[有線LAN設定]：LANケーブルでネットワークにつなぐときは、この設定を選びます。この設定を選ぶと、本機の無線LANは自動的に無効になります。

[無線LAN設定]：無線LANルーターでネットワークにつなぐときはこの設定を選びます。

ちょっと一言

詳しくは、以下のホームページの「Q&A」をご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/home-theater/>

【ネットワークの設定確認】

現在のネットワークの接続状態を表示します。

🗨️【Amazon Alexa設定】

Alexaの登録状態、Alexa用の言語、Alexa用の機器名を確認できます。

ちょっと一言

Alexa用の言語はSony | Music Centerアプリから変更してください。

🔗 [設定初期化]

各設定ごとにお買い上げ時の設定に戻します。選んだ設定のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻るので、ご注意ください。

詳しくは「初期化する」(88ページ)をご覧ください。

🔄 [ソフトウェアアップデート]

本体、サブウーファー、リアスピーカーのソフトウェアをアップデートします。詳しくは「ソフトウェアをアップデートする」(75ページ)をご覧ください。

ソフトウェアをアップデートする

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードすることにより、最新の機能を楽しめます。

アップデート情報については下記のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/home-theater/>

ご注意

- アップデートが終了するまでに約40分かかることがあります。
- ネットワーク経由でのアップデートはインターネット環境が必要になります。
- ソフトウェアアップデート中は、本機の電源を切ったり、電源コードを抜いたり、HDMIケーブルを抜き差ししたり、本機やテレビの操作をしないでください。ソフトウェアアップデート終了までお待ちください。
- 自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート]を[入]に設定してください(73ページ)。ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート]が[切]に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

ネットワーク上でアップデート情報が見つかった場合、アップデート通知および [ソフトウェアアップデート] が表示されます。この場合は [ソフトウェアアップデート] を選び、手順4に進みます。

3 [ソフトウェアアップデート] を選ぶ。

テレビ画面に [ソフトウェアアップデート] 画面が表示されます。

4 アップデートする項目を選ぶ。

▲/▼ボタンを押してアップデートする項目を選んで決定ボタンを押し、画面の指示にしたがってソフトウェアをアップデートします。アップデートが始まると本機は自動的に再起動します。

ソフトウェアアップデート中は、表示窓に「UPDT」と表示されま

す。アップデートが終了すると、本機は自動的に再起動します

[USBアップデート]


USBメモリーを使用してソフトウェアをアップデートします。詳しくは、アップデートファイルのダウンロード時に表示される手順をご覧ください。

[ワイヤレススピーカーをアップデート]

本機のソフトウェアが最新のと

き、サブウーファー、リアスピーカーのソフトウェアをアップデートします。サブウーファー、リアスピーカーの電源が入っていて本機とつながっていることを確認してください (33ページ)。

ご注意

- 本体のBLUETOOTHボタンと  ボタンを同時に7秒間押して [USBアップデート] を行うこともできます。
- Sony | Music Centerで [ネットワークアップデート] を行うこともできます。
- サブウーファー、リアスピーカーのアップデートがうまくいかない場合は、本体の近くに移動させてアップデートを行ってください。

[ネットワークアップデート]

ネットワークを使用してソフトウェアをアップデートします。ネットワークがインターネットにつながっていることを確認してください。

困ったときは

困ったときは


本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない


- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源コードを差し直してください。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない


-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定してください（70ページ）。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（61ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場

合は、テレビの電源を入れても本機の電源は入らない場合があります。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [電源オフ連動] を確認してください（70ページ）。[する] または [自動] に設定している場合は、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [電源オフ連動] を確認してください（70ページ）。本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ったときに、本機の電源も連動させたい場合は、[する] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（61ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。


本機の電源が切れない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。本体の（電源）ボタンとー（音量）ボタンを5秒以上押ししてください（88ページ）。

映像

映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（37ページ）。

- テレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たいチャンネルを選んでください。
- 本機のHDMI入力（1/2）端子につないだ機器の映像が出ない場合は、つないだ機器の再生ボタンを押してください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。
- 本機につないだ機器の映像が出ない、または正しく表示されない場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] を [標準フォーマット] に設定してください（24ページ）。
- HDCP 2.2対応機器をつなぐときは、機器をHDMI入力端子に、テレビをHDMI出力（TV eARC/ARC）端子につないだことを確認してください。
- HDCP（Highbandwidth Digital Content Protection）に対応している機器に本機をつないでいるか確認してください。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMI入力（1/2）端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。対応しているHDMIの映像フォーマットを確認してください（93ページ）。



HDMI入力（1/2）端子からの4K映像コンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては4K映像コンテンツが表示されない場合があります。テレビとビデオ機器の映像設定と機能を確認してください。
- [HDMI信号フォーマット] の設定を変更したときに、映像が出ない、または正しく表示されないことがあります。その場合は [標準フォーマット] に設定してください（24ページ）。
- 18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）（別売）またはイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル（別売）をお使いください（93ページ）。


テレビ全体に表示されない

- ディスクに記録されている映像のアスペクト比が固定されていないか確認してください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに映像と音声がでない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定して、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください（70ページ）。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器でHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [入] に設定してください（70ページ）。

HDRコンテンツがハイダイナミックレンジで表示されない

- テレビまたはつないだ機器の設定を確認してください。詳しくは、テレビまたはつないだ機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては、帯域が十分でないときにHDRコンテンツをSDRに変換することがあります。テレビとつないだ機器が18Gbpsに対応している場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] を [拡張フォーマット] に設定してください (24ページ)。また、18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください (93ページ)。

音声


本機とテレビがBLUETOOTH機能でつながらない

- テレビと本機をHDMIケーブル (付属) でつないでいる場合は、BLUETOOTH接続が解除されます。

本機からテレビの音声がでない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの種類や接続を確認してください (スタートガイド (別紙) を参照)。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込みなおしてください。続けてテレビと本機



の電源コードを抜き、差し込みなおしてください。

- テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合は、以下を確認してください。
 - 本機がテレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子につながれている。
 - テレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。
 - テレビのeARC機能またはARC機能が有効になっている。
 - 本機の [HDMI機器制御] が [入]、[TV音声入力モード] が [自動] になっている (70ページ)。
- テレビがeARCに対応していない場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [eARC] を [切] に設定してください (71ページ)。
- お使いのテレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、光デジタル音声ケーブル (別売) をつないでください (スタートガイド (別紙) を参照)。テレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。
- 本機の入力を [TV] に切り換えてください。本機とテレビをアナログ音声ケーブル (別売) でつないでいる場合は、入力を [Analog] に切り換えてください (43ページ)。
- 本機の音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビにつないだケーブルテレビ (CATV) ボックス/衛星放送チュー

ナーの音声が出ない場合は、それぞれの機器を本機のHDMI入力1またはHDMI入力2端子につないで、本機の入力をつないだ機器の入力（[HDMI1] / [HDMI2]）に切り換えてください（スタートガイド（別紙）を参照）。

- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本機の表示窓に「MUTING」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに映像と音声が出ない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定して、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください（70ページ）。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器でHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [入] に設定してください（70ページ）。

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

テレビ番組や録画した番組を視聴中に音が途切れる


- サウンドモードの設定を確認してください（53ページ）。オートサウンドに設定されている場合、視聴中の番組情報に応じてサウンドモードが自動的に切り換わる際に、音が途切れることがあります。自動的に切り換ええない場合は、オートサウンド以外のサウンドモードに設定してください。

本機から出るテレビの音声映像より遅れる

- 音声と映像のずれ調整機能の設定値が 25 msec～300 msecに設定されていたら、0 msecに設定してください（56ページ）。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください（12ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください（12ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。また、リモコンの入力選択ボタン（TV/HDMI1/HDMI2/ANALOG/USB/BLUETOOTH）を押して入力を切り換えてください（12ページ）。

- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、本機から音が出ないことがあります。
-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] の設定を [標準フォーマット] にしてください (24ページ)。





サラウンド効果が得られない

- サウンドモードの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスマルチルーム機能を使用すると、映像より音が遅れる

- ワイヤレスマルチルーム機能を使って本機の [TV] (BLUETOOTH接続含む)、[HDMI1]、[HDMI2] または [Analog] 入力の音声を再生している場合、他のスピーカーの音声と同期するため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のずれが気になる場合は、以下をお試しください。
 - HDMI1、HDMI2入力の場合：オプションボタンを押し、[Multi-


room Sync] を [Off] にしてください。

- テレビ入力またはアナログ入力の場合：オプションボタンを押してから、/ボタンで表示窓に「MSYNC」を表示させて決定ボタンを押し、/ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押してください。

本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

サブウーファー

サブウーファーから音が出ない、または音が小さい

- リモコンのサブウーファー+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げてください (55ページ)。
- サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯していることを確認してください。
- サブウーファーの電源ランプが消灯している場合は、以下を試してください。
 - サブウーファーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
 - サブウーファーの  (電源) ボタンを押して電源を入れる。
- サブウーファーの電源ランプが緑色でゆっくり点滅、または、赤色に点灯している場合は、以下を試してください。
 - サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯するようにサブウー

ファアの位置を本体の近くに動かす。

—「サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ」(33ページ)の手順を行う。

—ワイヤレス接続の状態を確認する(69ページ)。

- サブウーファーの電源ランプが赤色に点滅している場合は、サブウーファーの⓪(電源)ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通風孔がふさがっていないか確認してください。
- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力(テレビ放送など)では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。サブウーファーからの出力状態はテストトーンで確認できます(65ページ)。
- ナイトモードをオフにしてください。詳しくは「深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ(ナイトモード)」(55ページ)をご覧ください。
- [ワイヤレス周波数設定]を[切]から[入]に切り換えた場合(35ページ)、音声を出力するまで1分ほどかかることがあります。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使ってください。
- 本体とサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。

→ 本体とサブウーファーをできるだけ近づけてください。

→ [ワイヤレス周波数設定]の設定を切り換えてください(35ページ)。

→ テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。

リアスピーカー(別売)

リアスピーカーから音が出ない

- リアスピーカーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。
- リアスピーカーの電源ランプが消灯している場合は、以下を試してください。
 - リアスピーカーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
 - リアスピーカーの⓪(電源)ボタンを押して電源を入れる。
- リアスピーカーの電源ランプが緑色でゆっくり点滅、または、赤色に点灯している場合は、以下を試してください。
 - リアスピーカーの電源ランプが緑色に点灯するようにリアスピーカーの位置を本体の近くに動かす。
 - 「サブウーファー、リアスピーカーをワイヤレスでつなぐ」(33ページ)の手順を行う。
 - ワイヤレス接続の状態を確認する(69ページ)。

- リモコンのリア音量+ボタンを押して、リアスピーカーの音量を上げてください (55ページ)。
- [ワイヤレス周波数設定] を [切] から [入] に切り換えた場合 (35ページ)、音声を出力するまで1分ほどかかることがあります。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使ってください。
- 本体とリアスピーカーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 本体とリアスピーカーをできるだけ近づけてください。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器がψ (USB) 端子にしっかりつながれているか確認してください (40ページ)。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。

- USB機器がハブを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。
- ウォークマン®やスマートフォンをつないだ場合、機器の内部ストレージと外部ストレージ (メモリーカードなど) は検出されないことがあります。

モバイル機器の接続

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

BLUETOOTH接続ができない

- 本体のBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (38ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください (38ページ)。

つないだBLUETOOTH機器の音が 本機から出ない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (38ページ)。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

ヘッドホンのBLUETOOTH 接続

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近づけてからペアリングを行ってください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (8ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。「ペアリングした機器を機器リストから削除する」(50ページ) をご覧ください。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください (49ページ)。

つないだBLUETOOTH対応ヘッド ホンから音が出ない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (8ページ)。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。

- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。
- [ワイヤレス再生品質] を [自動] に設定してください (72ページ)。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力されないことがあります。

有線のネットワーク接続

ネットワークにつながらない

- ネットワークの接続 (26ページ) と通信設定 (74ページ) を確認してください。

無線LANのネットワーク接続

[Wi-Fi Protected Setup™(WPS)] を行ったあとにパソコンをインターネットにつなげない

- ルーターの設定をする前にWi-Fi保護設定機能を使うと、ルーターのワイヤレス設定が自動的に変わることがあります。その場合はパソコンのワイヤレス設定を変えてください。

本機をネットワークにつなげない、 またはネットワーク接続が不安定になる

- 無線LANルーターの電源がオンになっていることを確認してください。
- ネットワークの接続 (26ページ) と通信設定 (74ページ) を確認してください。
- 壁の素材、電波の状態、本機と無線LANルーター間の障害物などの使用環

境によって、通信距離が短くなる場合があります。本機と無線LANルーターを近づけてください。

- 電子レンジ、BLUETOOTH機器、デジタルコードレス機器などの2.4 GHzの周波数帯域を使う機器は、通信に影響を与えることがあります。それらの機器を遠ざけるか、電源を切ってください。
- 特に本機のBLUETOOTH機能を使っているときは無線LAN接続が使用環境により不安定になることがあります。無線LAN使用環境の改善をお試しください。

無線LANルーターがワイヤレスネットワークのリストに表示されない

- 戻るボタンを押して前の画面に戻り、[無線LAN設定] をお試しください (27ページ)。それでも無線LANルーターが検出されないときは、ネットワークリストから [新しい接続先の登録] を選んでから [手動登録] を選び、ネットワーク名 (SSID) を手動で入力します。

インターネット接続

インターネットにつながらない

- 有線または無線LANの接続を確認してください。
- ルーターまたは無線LANルーターを再起動してください。

ワイヤレスマルチルーム

映像より音が遅れる

→ ワイヤレスマルチルーム機能を使って本機の [TV] (BLUETOOTH接続含む)、[HDMI1]、[HDMI2] または [Analog] 入力の音声を再生している場合、他のスピーカーの音声と同期するため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のずれが気になる場合は、以下をお試しください。

— HDMI1、HDMI2入力の場合：オプションボタンを押し、[Multi-room Sync] を [Off] にしてください。

— テレビ入力またはアナログ入力の場合：オプションボタンを押し、▲/▼ボタンで表示窓に「MSYNC」を表示させて決定ボタンを押し、▲/▼ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押ししてください。

本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

Sony | Music Centerでワイヤレスマルチルーム機能が使えない

→ 本機と同一のネットワークにモバイル機器をつないでください。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

→ 本体のリモコン受光部に向けて操作してください (8ページ)。

→ リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。

→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。

→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください。

テレビのリモコンが機能しない

→ IRリピーター機能を有効にしてください (36ページ)。

その他

HDMI機器制御機能が正しく働かない

→ 本機との接続を確認してください (スタートガイド (別紙) を参照)。

→ テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

→ しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。

→ 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。

→ 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。

→ HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。

- 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
- 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで（本機がそのうちの1台を使用します。）
- チューナー関連機器：4台まで
- オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

表示窓に「PRTCT（プロテクト）」と点滅表示され、本機の電源が切れる

→ 電源コードを抜き、本体の通風孔がふさがっていないか点検してください。

表示窓に「PRTCT（プロテクト）」、「PUSH」、スピーカーの名前（「SUB」、「SUR L」または「SUR R」）、「POWER」が順番に点滅表示される

→ 表示されているスピーカー（「SUB」：サブウーファー、「SUR L」：リアスピーカー左、「SUR R」：リアスピーカー右）の⓪（電源）ボタンを押して電源を切ってください。サブウーファーの場合は、電源コードを抜いてから、スピーカーの通風孔がふさがっていないか確認したあと、電源を入れなおしてください。リアスピーカーの場合は、電源コードを抜いてから、電

源を入れなおしてください。正しく本機とつながると、本体の表示窓は通常表示に戻ります。

表示窓に「BT TX」と表示される

→ [Bluetoothモード] を [受信] に設定してください。[Bluetoothモード] を [送信] に設定している場合は、表示窓に「BT TX」と表示されます（71ページ）。

テレビの各種センサーが正常に動作しない


→ 本体の置きかたによっては、本体がテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。



無線機能（BLUETOOTH機能、無線LAN、サブウーファー、リアスピーカー）が不安定

→ 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

急に知らない音楽が再生された

→ 店頭用内蔵音源が再生されている可能性があります。本体の⓪ ボタンを押すと再生が停止します。

電源を切ることができない、または
[詳細設定] が使えない / 本体の  (電源) ボタンを押すと表示窓に
「.DEMO」と表示され電源を切ること
ができない

→ 本機がデモモードになっている可能性
があります。デモモードを解除するに
は、本機を初期化します。本体の  (電源) ボタンと  (音量) ボタンを5
秒以上押してください (88ページ)。

MUSIC SERVICEボタンを押しても
Spotifyの再生ができない、または
途中でできなくなった

→ モバイル機器のSpotifyアプリ上で
Spotify Connect機能を使って、本機
でSpotifyの音楽再生を行ってください。
詳しくは「Spotifyを使う」(43
ページ) をご覧ください。

本機が再起動する

→ 解像度の異なるテレビとつなぐと、映
像出力の再設定のために本機が再起動
する場合があります。

初期化する

「困ったときは」で症状が改善されな
い場合は、本機を初期化してくださ
い。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示
されます。

2 ホームメニューで [設定 する] → [詳細設定] を選 ぶ。

3 [設定初期化] を選ぶ。



4 初期化したい項目を選ぶ。

5 [実行] を選ぶ。

初期化をキャンセルする

手順5で [中止] を選びます。

ホームメニューで本機を初期 化できない場合

本体の  (電源) ボタンと  (音量) ボタンを同時に5秒以
上押す。

設定が初期化されます。

ご注意

初期化によりサブウーファー、リアスピー
カーとの接続が切断される場合があります。
その場合は、「サブウーファー、リアスピー
カーをワイヤレスでつなぐ」(33ページ)
を行ってください。

その他

主な仕様

ベーススピーカー (SA-Z9F)

アンプ部

実用最大出力 (非同時駆動、JEITA*)
フロントL/フロントR/センタース
ピーカーブロック: 100 W × 3 (各
チャンネル4 Ω、1 kHz)

入力

HDMI入力** (1/2)
デジタル入力 (TV入力 (OPT))
アナログ入力

出力

HDMI出力** (TV eARC/ARC)

* JEITA (電子情報技術産業協会) 規定に
よる測定値です。

** HDMI入力1/2端子とHDMI出力 (TV
eARC/ARC) 端子はHDCP 2.2規格に対
応しています。HDCP 2.2は4K画像など
のコンテンツ用に新しく強化された著作
権保護技術です。

HDMI部

端子

19ピン標準コネクタ (Type A)

USB部

ψ (USB) 端子:

Aタイプ (USBメモリー)

LAN部

LAN (100) 端子

100BASE-TX端子

無線LAN部

通信方式

IEEE 802.11 a/b/g/n

使用周波数帯域

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.4.2

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約30 m¹⁾

登録台数

9台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP (Advanced Audio
Distribution Profile)

AVRCP (Audio Video Remote
Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC⁵⁾、LDAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域 (A2DP)

20 Hz ~ 40,000 Hz (LDAC 96 kHzサ
ンプルングかつ990 kbpsで伝送時)

20 Hz ~ 20,000 Hz (44.1 kHzサン
プリング時)

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通
信距離が変わる場合があります。
- 2) BLUETOOTHプロファイルとは、
BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標
準化したものです。
- 3) 音声圧縮変換方式のことです。
- 4) Subband Codec の略です。
- 5) Advanced Audio Codingの略です。

フロントL/フロントR/センタース ピーカーブロック部

形式

フルレンジスピーカーシステム

アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

46 mm コーン型

一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：52 W
[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] → [入]：2.4 W以下
[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] → [切]：0.5 W以下*

* [スタンバイスルー] が [切] のとき、または [スタンバイスルー] が [自動] でつないだテレビの電源がオフのとき

最大外形寸法* (約) (幅/高さ/奥行き)

1,000 mm × 64 mm × 98 mm (グリル非装着時)

1,000 mm × 64 mm × 99 mm (グリル装着時)

* 突起部除く

質量 (約)

2.9 kg (グリル非装着時)

3.1 kg (グリル装着時)

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

対応iPhone/iPod

以下のモデルに対応しています。本機につないで使用する前にiPhone/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。
iPhone X/iPhone 8/iPhone 8 Plus/
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/
iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/
iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/
iPhone 5
iPod touch (6th generation) /
iPod touch (5th generation)

サブウーファー (SA-WZ9F)

実用最大出力 (非同時駆動、JEITA*)

100 W、4 Ω、100 Hz

* JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

形式

サブウーファーシステム
バスレフ型

使用スピーカー

160 mm コーン型

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：20 W
スタンバイ状態のとき：1 W以下
電源オフ状態のとき：0.5W以下

最大外形寸法 (約) (幅/高さ/奥行き)

190 mm × 382 mm × 386 mm (突起部除く)

質量 (約)

8.1 kg

ワイヤレストランスミッター ／レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification
version 4.0

使用周波数帯域

5 GHz

変調方式

OFDM

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

再生できる音声 ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	.mp3
AAC/HE-AAC	.m4a, .aac, .mp4, .3gp
WMA9 Standard	.wma
LPCM	.wav
FLAC	.flac
DSF	.dsf
DSDIFF*	.dff
AIFF	.aiff, .aif
ALAC	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

* DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録音状態、またはその他の状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 名前やメタデータによっては、ファイルやフォルダーを認識できないことがあります。
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーなど）を認識します。

入力できる音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	入力			
	HDMI1 HDMI2	TV (eARC)	TV (ARC)	TV (OPT)
LPCM 2ch	○	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	○	—	—
LPCM 7.1ch	○	○	—	—
Dolby Digital	○	○	○	○
Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Digital Plus	○	○	○	—
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	○	○	○	—
DTS	○	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1	○	○	○	○
DTS 96/24	○	○	○	○
DTS-HD High Resolution Audio	○	○	—	—
DTS-HD Master Audio	○	○	—	—
DTS-HD LBR	○	○	—	—
DTS:X	○	○	—	—
DSD	○	—	—	—
MPEG-2 AAC	○	○	○	○

○：対応

—：非対応

ご注意

HDMI入力1/2端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコピープロテクションが含まれる音声フォーマットは対応しません。

入力できる映像フォーマット

以下の映像フォーマットに対応しています。

解像度	フレームレート	3D	カラースペース	色深度	[HDMI信号フォーマット] 設定
4K 4096 × 2160p ³⁾ 3840 × 2160p	50/59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit	[拡張フォーマット] ¹⁾
		—	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
	—	YCbCr 4:2:0	10/12 bit		
4K 4096 × 2160p ³⁾ 3840 × 2160p	50/59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit	[標準フォーマット] ²⁾
		—	YCbCr 4:2:0	8 bit	
	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit		
1920 × 1080p	25/29.97/30/50/ 59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
	23.98/24 Hz	◎			
1920 × 1080i	50/59.94/60 Hz	○			
1280 × 720p	50/59.94/60 Hz	◎			
	23.98/24/29.97/ 30 Hz	—			
720 × 480p	59.94/60 Hz	—			
720 × 576p	50 Hz	—			
640 × 480p	59.94/60 Hz	—			

○：左右分割方式（サイドバイサイド）³⁾ の3D信号に対応しています。

◎：フレームパッキング、上下分割方式（トップアンドボトム）³⁾ の3D信号に対応しています。

¹⁾ 18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

²⁾ プレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）またはケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

- 3) オプションボタンが動きません。またオンスクリーンディスプレイ (OSD) も表示されません。

HDMI端子とHDMI機器の接続について

- 認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
 - HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
 - HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
 - つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声途切れることがあります。
 - 本機の入力が [TV] のときは、HDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子からは前回選ばれたHDMI入力 (HDMI入力 1/2) の映像が出力されます。
 - 本機はトリプルミナスに対応しています。
 - すべてのHDMI入力端子とHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子は、18Gbpsまでの帯域、HDCP 2.2¹⁾、BT.2020広色域²⁾、そして、HDR (High Dynamic Range) ³⁾ コンテンツ伝送に対応します。
 - 解像度の異なるテレビとつなぐと、映像出力の再設定のために本機が再起動する場合があります。
- ¹⁾ HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。
- ²⁾ BT.2020色域は、4Kテレビで定義された、新しい広色域規格です。
- ³⁾ HDRは、より広い範囲の（明部と暗部の）輝度を表現できる鮮やかなビデオ規格です。本機はHDR10方式、HLG (Hybrid Log Gamma) 方式、Dolby Vision方式に対応しています。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

- －BLUETOOTH標準規格Ver. 4.2

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- －AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約30 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度

の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 一本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 一 病院内／電車内／航空機内／ガンリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 一 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準

規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムに無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと

ソフトウェア使用 許諾契約書

本契約は、ソニーホームエンタテインメント&サウンドプロダクツ株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知

的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
2. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
3. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の

権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。

5. お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
6. 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用权以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の

不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。

2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。
3. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過

失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産

権に関する法令に従うものとし、また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。

2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

（ア）許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

（イ）当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

（ウ）アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要

があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切ただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

壁掛け時は同梱の壁掛け用ブラケットを必ず使う

壁にかける場合は必ず同梱の壁掛け用ブラケットを使用してください。本体を直接壁にかけないでください。製品内部の温度が上昇することで、誤動作や故障の原因となります。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気をつけください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

バスピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

⚠ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

- 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れてない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



指示

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するもの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないようにください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 壁掛け時は、下から3 cm以上の高さに取り付けてください。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。
- 電気通信事業法により、無線モジュールの変更は禁止されています。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS/OF4

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してDS-SS変調方式およびOFDM変調
方式を採用し、与干渉距離は40 mで
す。

2.4FH8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH-SS変調方
式を採用し、与干渉距離は80 mです。

法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外
で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

J52 W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n準拠
(W52/W53/W56)

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信
システムの無線設備として、認証を受けて
います。従って、本機を使用するときに無
線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せら
れることがあります。

- 本機を分解／改造すること

第三者が提供するサービスに関する 免責事項

本製品に搭載され、または本製品で利用可
能なネットワークサービス、コンテンツお
よびソフトウェア（オペレーションシステ
ム含む）には、各々の利用条件が適用され
ます。予告なく提供が中断・終了したり、
内容が変更されたり、ご利用に際して別途

の登録や料金の支払いが必要になる場合が
ありますので、ご了承ください。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでイン
ターネットに接続してご使用になる場合、
ソフトウェアを自動で最新にアップデート
（更新）する機能を有しています。
アップデートすることで、新しい機能が追
加されたり、より便利かつ安定してご使用
になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたく
ない場合は、スマートフォン／タブレットに
インストールしたSony | Music Center
を使って、本機能を無効にすることができ
ます。

ただし、本機能を無効にしても、安定して
ご使用いただくため等により、ソフトウェ
アを自動でアップデートすることがありま
す。

また、本機能を無効にしても、お客様の操
作で、システムソフトウェアをアップデー
トすることは可能です。

詳しい設定方法は「詳細設定をする」(68
ページ)をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご
使用いただけない場合があります。

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラポラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Vision、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラポラトリーズの商標です。

** DTSの特許については下記をご覧ください。

<http://patents.dts.com>

DTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせ、DTS:XおよびDTS:Xロゴは米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

Google、Google Play、Chromecast built-in、およびその他の関連するマークやロゴは、Google LLCの商標です。

Apple、iPhone、iPod、iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc.

の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“ClearAudio+” はソニー株式会社の登録商標です。

ウォークマン®、WALKMAN®、WALKMAN®ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術の本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®およびWi-Fi Alliance®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™および、Wi-Fi Protected Setup™は、Wi-Fi Allianceの商標です。

LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。


LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBluetooth経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC等の既存Bluetooth向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBluetooth無線伝送を実現しています。

* DSDフォーマットは除く。

** 990kbps (96/48kHz) または909kbps (88.2/44.1kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding) との比較。

本機には、GNU General Public License (“GPL”) または GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様にはGPL/LGPLの条件に従って、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて、詳しくは本機の  [設定する] → [詳細設定] → [本体設定] → [ソフトウェアライセンス] をご覧ください。

“DSEE HX” はソニー株式会社の登録商標です。

DLNA™、DLNA ロゴおよびDLNA CERTIFIED™はDigital Living Network

Allianceの商標、サービスマークあるいは認証マークです。

“TRILUMINOS” および“TRILUMINOS” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

Spotifyのソフトウェアは以下に記載のサードパーティソフトウェアを利用しています。
<https://www.spotify.com/connect/third-party-licenses>

SpotifyおよびSpotifyロゴはSpotifyグループの商標です。

AOSS™は株式会社 バッファローの商標です。

らくらく無線スタートはNECプラットフォームズ株式会社の登録商標です。

Amazon、Alexa及び関連するすべてのロゴはAmazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

数字

2か国語放送 58

あ行

アップデート 75

オーディオDRC 69

音声設定 69

か行

機器名設定 73

機器リスト 72

さ行

サウンドエフェクト 70

サウンドモード 53

サブウーファー 55, 81

自動アップデート 73

自動アップデート設定 73

自動電源オフ 73

スタンバイスルー 63, 67, 70

スピーカー設定 65, 69

設定初期化 75, 88

ソフトウェアアップデート 75

ソフトウェアアップデート通知 73

ソフトウェアライセンス 74

た行

タイムゾーン 73

通信設定 74

電源オフ連動 70

な行

ナイトモード 55

入力レベル自動調整 70

ネットワーク 26

ネットワーク / Bluetooth スタンバイ
73

ネットワークアップデート 76

ネットワーク設定 74

ネットワークの設定確認 74

は行

プライバシーの設定 74

プロテクト表示 87

ボイス 54

本体情報 74

本体設定 72

本体表示 66

ま行

マニュアルスピーカー設定 69

ら行

リモコン 12

わ行

ワイヤレス再生品質 69, 72

ワイヤレススピーカー設定 69

ワイヤレススピーカーをアップデート
76

アルファベット

Amazon Alexa設定 74
ARC (Audio Return Channel) 9, 62, 71
BLUETOOTH 38, 95
Bluetooth Codec–AAC 72
Bluetooth Codec–LDAC 72
Bluetooth設定 71
Bluetoothモード 71
BT.2020 94
DSEE HX 69
eARC (Enhanced Audio Return Channel) 9, 25, 62, 71
HDCP 2.2 94
HDMI機器制御 61, 70
HDMI信号フォーマット 24, 71, 93
HDMI設定 70
HDR 94
IRリピーター 72
OSD表示言語 72
PRTCT 87
Sony | Music Center 47
TV音声入力モード 71
USBアップデート 76
VERTICAL S. 52

